

ベネズエラ

ベネズエラ国概況

1956年11月 農林技官 熊 策 談

この国は1498年8月1日、クリストバル・コロンが新世界探険第三次遠征の際発見したもので、国名はマラカイボ湖のIndian住居がベニスの住宅様式に似ているので小さなベニスと云うところから名付けられたことによる。1811年6月5日独立を宣言、共和国を創建したが、独立が確実となったのは1821年自由の遍シモン・ボリーバル将軍がカラボボ平原にスペイン王朝軍を粉砕した後である。

1. 地 形

北部、西部、南部地帯に3つの主要山脈が走り中央に大平原を展開している。西部マラカイボ湖の東側は高峻な山岳地帯で最高峰はラ・コルムナ (La Columna) で高さ5002m。最大の河はオリノコ河長サ2150km (航行距離1670kmで南米第三位の河 Puerto Ordazまでは6万トの船が溯上する。この河の上流エルサルタンヘルの滝 (El Salt Angel) は高さ800mで世界第1という。

2. 面 積

総面積912,050平方千米で日本(369,000平方千米)の2.4倍である。これを移住其他日本と関連がある南米諸国と比較すれば次のとおりである。

ブラジル	8,516,037 ^{k2}	ベネズエラ	912,050 ^{k2}
アルゼンチン	2,790,603	チリ	741,767
ペルー	1,249,049	パラグアイ	406,732
コロンビア	1,139,155	エクアドル	270,650
ボリビア	1,069,094		

3. 気 候

土地の高低によって異なるが熱帯(北緯12°)に位置し、低地

は酷暑地帯であるが高地、屋内は比較的涼しい。雨期は4~5月から10月迄、乾期は11月から3~4月に分れている。首都カラカスは高度3,164呎(96.4米)で快適な気候で最低8.6°C 最高33.1°C 平均20.4°C となっている。

4. 人口

(1) 1956年の人口は6,072,000人と推定される。

人口密度は1平方キロ当6.4人である。

年次別人口増加を示せば次のとおりである。

年 度	人 口
1891年	2,323,527
1920	2,365,098
1926	2,890,731
1936	3,364,347
1941	3,850,771
1950	4,985,716
1954	5,091,543
1956	6,072,000

(2) 人種構成

混血人(白人とインディアン又はネグロ)	65%
白人	20%
黒人	8%
インディアン	7%

(3) 在留外人

1956年1月末現在403,103人の外国人の内訳は

イタリア人	125,000人	ポルトガル人	31,000
スペイン人	105,000	コロンビア人	27,000
北米人	37,000	英人	10,000

(4) 職業別人口

1950年の国勢調査報告によればヴェネズエラの職業人口は次のように分類される。

農林水産業	707,700人
鉱業(石油を含む)及び工業	308,100
サービス・運輸・銀行商業	546,300
失業者	116,000
計	1,678,100

5. 教育・文化・宗教等

全般的には文化程度は低く、小学校は義務制で国立大学は3あるのみ、文盲者は48.8%に達する。言語はスペイン語、宗教はカトリックが国教となっている。衛生状態は比較的よく特記すべき風土病はなく、都市においては、伝染病の発生は殆んどない。

6. 貨幣制度

紙幣 500ボリバル 100. 50. 20. 10 の5種
 補助貨 5ボリバル 2. 1
 尚 1ボリバル は 100センタイモ で 50センタイモ(半)
 (リアル) 25仙(メディオ) 12.5仙(ロ-チャ)
 等の区分がある。

換算相場 1ソコ = 3.35ボリバル

7. 主要都市

- カラカス市(首都) 1567年創設、人口100万人、標高1,000mの高原にあり、政治、文化、経済の中心地。
- マラカイボ市(第2の都会)人口30万人、スリア州庁所在地、商業の中心地、石油、コーヒーの輸出港。
- バルキシメート市(第3の都会)人口15万人、ラ、州政府所在地、商業の中心、農産物集散地。
- ヴァレンシャ市(第4の都会)人口11万余、カラボ州庁所在地、農牧業中心地。

8. 政治

(1) 政体

従来合衆国であったが1953年4月15日改正の憲法により共和国となった。

(2) 立法

立法権は上院、下院から成る国会に属す。通常国会の会期は4月19日より100日間憲法の規定により国会議長には上院議長、副議長は下院議長がそれぞれ任命される(21才以上選挙権あり)上院は定員42名任期は4年連邦区各州から2名ずつ選出される。被選挙資格は30才以上の出生によるヴェネズエラ人であること。2年毎に半数ずつ改選される。

下院は定員104名任期は4年連邦区、各州から人口5万につき1名の割合で選出される。連邦領からも1名ずつ選出される。21才以上の出生によるヴェネズエラ人であること。2年毎に半数ずつ改選される。

(3) 行政

大統領は行政の長、直接選挙により選出され、任期は5年である。

大統領 マルコス・ペレス・ヒメネス陸軍少将

外務大臣 ホス・ロレート・アリス・メンディ

農牧大臣 アルマンド・サマヨ・スアレス博士

(4) 地方行政

全国を20州-連邦区、2連邦直轄区、2連邦属領に分けている。各州は自治制を布き、州議会を持ち、知事は選挙により選出される。連邦区、直轄区は大統領の任命する知事が統治する。

(5) 政党

コパイ党、ヴェネズエラ社会党を除いて他は解党、共産党、民主行動党(前政権担当政党)は非合法である。

(6) 軍事

軍の大権は大統領に属し、大統領は国務大臣に陸海空の三軍を指揮させている。兵役は義務制で18才以上45才迄の全ヴェネズエラ人がこれに服する。陸軍の常備兵は約1万人、歩、騎、砲工、航空の別がある。海軍の保有艦艇は16隻、空軍は10機

以上。

(7) 労働

ヴェネズエラにおける労働は特別の法律即ち労働法(LEYES TRABAJOS)によって規律されている。とに前この法律は労働者の福祉の擁護に肉し、最も進歩したものと云われており、国民及び外国人にも適用される。

ヴェネズエラに設立される事業は次の割合で人員を雇う義務がある。即ちヴェ國人 75% 外国人 25% の割合である。国家の利益のために外国人を使用する場合は、特別法に決めてあるこの割合を変更することを陳情することが出来る。

給料を決める場合には必ず地位の職務を果すに必要な労賃に相当し且つ能率の状態や行程に相当するものでなければならぬ。法律は衛生及び産業安全と事件の場合の損害補償について国体労働協約を結ぶ様指示している。

日曜及び祭日は強制的に休息するよ様に定められており止むを得ず労働に使用した場合は之程の給料を払わねばならない。同じ事業に働き同じ事務所や職業に勤めている者又は、手工的或は習性的性格上、同様の職業や事務所を働いている 18 才以上の男女が各々労働組合で団結する権利をもつ。組合の数は 400 以上と見られる。

(8) 移民政策

1936 年制定の移植民法第 5 条第 1 項の規定により、白人でない者は移民(契約移民を指す)として入国することが出来ないことになっているが、一時滞在者として入国し引続き 1 年以上滞在する場合永住権を許可されるので、大體移民の入国は不可能であるが、少数移民の入国にさしたる不便はない。

9. 経済

(1) 一般経済

ヴェ國財政経済は石油資源から生ずる収入を基盤として、現在極めて健全であるが、近年鉄鉱も開発され、輸出を開始した

ので対外貿易の出超と相俟ち今復も引続き経済繁栄を続けるものと見られる。

(2) 財 政

国家財政は毎日黒字を続けているが1955～56年度(会計年度は7月1日より翌年6月30日まで)予算決定額は次のとおり

オ 入	32億118万ポリバー
オ 出	30億5527万ポリバー
差 引	1億459万ポリバー 黒字

(イ) 金及び外貨保有高

1954年12月末	1508933千ポリバー
1955年	1653597

(ロ) 通貨流通高

1954年12月末	2462922
1955年	2956659

(ハ) 銀行当座予金及び貯蓄額

1954年12月末	3320064
1955年	3996280

(ニ) 1953年12月末現在の外国資本の産業別投資高は次のとおり

石油事業	9695.457千ポリバー
鉱業	738.528
工業	270.564
商業	76.577
銀行業	56.646
建築業	37.033
サービス業	34.348
保険業	27.737
農 業	13.200
計	10950.090

(木) 国別投資高内訳

アメリカ	6,639,934	千ボリバル	60.63%
オランダ	2,775,330		25.35
イギリス	1,316,524		12.02
カナダ	85,080		0.78
スペイン	40,977		0.37
フランス	31,246		0.29
パナマ	13,034		0.11
スイス	11,283		0.10
イタリア	4,050		0.04
アルゼンチン	4,014		.
コロンビア	3,248		0.03
スーダン	2,790		0.02
コスタリカ	2,643		0.02
ブラジル	2,051		.
ウルガイ	1,900		.
ポルトガル	1,688		.
ドイツ	1,056		0.01
その他	13,227		0.12
計	10,950,090		100%

(3) 賃銀及び物価

ヴェネズエラの物価は非常に高い。日常周辺の物で比較的安いと思われるのは砂糖、コーヒー、清涼飲料水類のもので、総体には日本の2~3倍である。高物価の最も大きな原因は衣食住の消費材を殆んど輸入に依存しているためと思われるが、国産品が比較的高価なことは、原料高は勿論だが労働賃金の高いことにも起因すると思われる。これは労働者擁護の制度が進んでいるのと、潜在的にはアメリカ式生活様式の普及によるところが大きいと見られる。

日傭労働者が1日1000円(邦貨)を要求し、単純労働者が

1日2,000円程度であるから、技術者の給与は推して知るべしである。従ってヴェネズエラでは人を沢山使う仕事は成り立ってゆかないと云われる。争突役所や事務室を見ても非常に人が少ない。これは米圃式争務処理の機構や器具が入っている為でもあるが高賃金を考慮しての結果に間違いがないであろう。然し反面職のない人も相当多い。この様な人は就職しても左程労賃は高くない。ヴェネズエラには非常に高賃銀、生活程度の高いクラスがあると同時に非常に低いクラスがあり然もその差が甚しく後者は殆んど土人階級の文盲層のようである。

10. 産 業

鉱業を主とし、農業、工業がこれに次ぐ。

(1) 鉱 業 石油、鉄が主たるものである。

(1) 石 油

今次戦争を契機として飛躍的に増加した。原油生産高は世界第二位、その輸出高は世界一。1955年生産高 原油、7億8756万バレル(1億2千万立方米)平均日産高230万バレル精油年1億9586万バレル(3.114万立方米)である。

1954年の原油輸出高 6億5千6百46万バレル
(1億437万立方米)

1955年 " 7億4千043万 "
(1億1722万 ")

石油の埋蔵量は109億バレル以上。1954年末現在の石油コンセッション許与面積6,026,551ヘクタールで石油生産可能全地域3,500万haの17.2%ヴェネズエラ総面積の6.3%

現在石油は西部タリア及びバリーナス州、中部グアリコ州、東部モナーガス及びアニソアテボ州に生産されている。石油のロイヤルティとは開発税、コンセッション面積税、消費税を含めて云うが上記の外営業税、その他の税金を含め石油業

の税金納は総純益の55%に当り国家オ入の60%前後に当る。

(ロ) 鉄 鉱

鉄鉱埋蔵量推定 15億トン(20億トン)

埋蔵面積 27,876,693ha (内訳国有27,820,000ha, コンセッション許与面積56,693ha)

埋蔵地はボリーバル州及びデルタアマクロー領、既開発地はボリーバル州のエル・パオ及びセロ、ボリーバルの2ヶ所である。

(2) 農 業

主要農産物はCoffee, Cocoa であるが、最近 増産計画の推移により米、砂糖の生産は国内需要を上廻るに至ったがCost高 外国輸出は困難である。

	1953年	1954年	1955年
米	26,389トン	31,110	26,779
砂 糖	71,818	93,669	144,046
棉	12,775	13,414	13,000
コーヒー	44,808	53,427	46,295
カカオ	16,000	15,000	15,000

(3) 工 業

	1954年	1955年
綿 布	9,564,864m	10,669,510m
人 絹	24,372,735	22,604,161
綿人絹交織	4,949,722	5,518,963
毛織物	702,338	648,170
煙 草	2,995,130 ^{千本}	3,277,424 ^{千本}
セメント	1,213,021トン	1,282,295トン
タイヤ	372,045個	417,204個
チューブ	343,777	307,391

11 貿 易

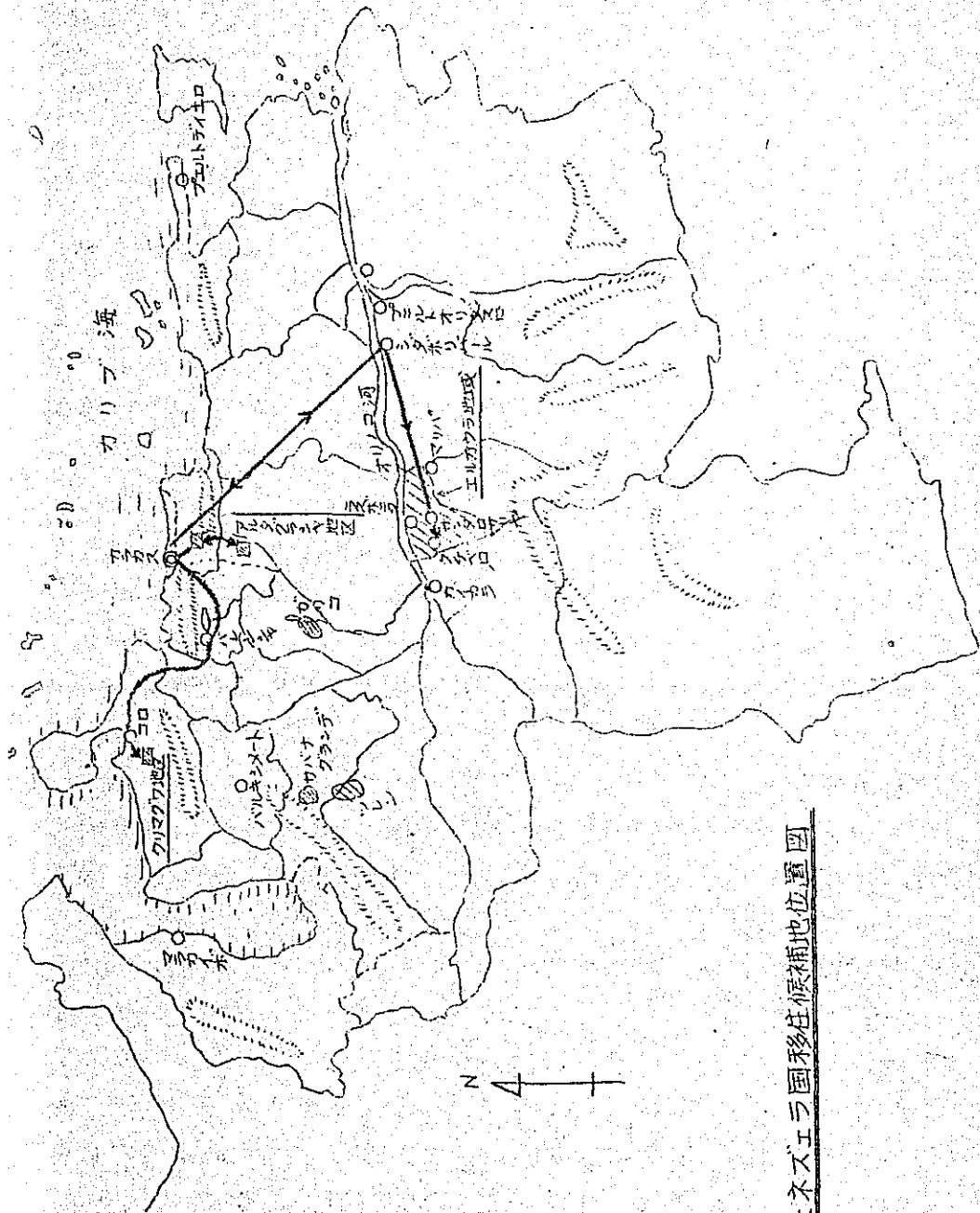
最近15ヶ年間の統計を見るに常に出超を示しているが、その

輸出輸入額は次の通りである。(単位 千ポリアル)

年 次	輸 出	輸 入	出 超 額
1941	1,061,564	287,825	773,739
1945	1,107,852	804,947	302,905
1950	3,892,197	2,000,643	1,891,554
1954	5,660,989	2,745,803	2,915,186
1955	6,408,730	3,260,000	3,148,730

区 分		1954年	1955年
主要輸出品	石油及び抽出物	5,336,981	6,031,250
	鉄 鉉	117,151	163,080
	コ - ヒ -	111,240	124,100
	カ カ 才	47,480	34,384
主要輸入品	機 械 器 具	907,286	975,083
	金 属 同 製 品	431,476	529,081
	飲 食 料 品	406,245	435,383
	織 維 製 品	164,793	161,402
	化 学 製 品	147,235	163,003
	鋳物 硝子 陶器	115,133	113,220

主要輸出入国は米国である。日本との貿易は少額ながら日本に有利な片貿易となる。



バエネズエラ國移住候補地位置圖

エルカウラ地区

1956年11月 農林技官 能條 詔

(1) 調査の目的

川崎代理公使宛親日家アリストゲータ氏よりの覚書によれば、国立農業協会の申出により、エルカウラ地方の土地50,000町歩（賃貸料年10セントイモ）を賃貸する。期間は1954年で希望があれば購入出来る。土地は栽培に適する所を選択し得ると云うことであり、本地方の調査をして日本移住者の送出の可否を検討することにあつた。

(2) 調査期間及び人員

前記覚書に、栽培顧問として農業技術者4名を派遣することが適当であることに基づき、齊木等務官、能條技官、公使館員大河内氏の外にコロンビヤパルミラ植民地島農会長坂本副会長、栗根理等の5名が調査に当ることになり、11月22日より26日迄5日間該地方の調査を了した。

(3) 調査の方法

地域は極めて広大であるが、調査期間が短いので、出来るだけ現地を踏査し、その自然的経済的及び社会的諸条件の把握に努めることにした。

(4) 調査地域の概要

エル・カウラ（EL・CAURA）地域とはベネズエラ国の畧中央部に存し、ボリバーリー州カウラ区（DISTRITO CAURA）であり、北方はオリノコ河、西方は同支流クチベロ河、東方は同じくカウラ河に囲まれ南方は、シデノ区（DISTRITO CIDENO）に接するほぼ扇状をなす地帯である。

(5) 自然的条件

(1) 位置

この国の中央部、オリノコ河の中流に位し、北緯 $7^{\circ}30'$ 西

経 65°30' 標高 80 ~ 100 m

(ロ) 地区の規模

エル・カウラ地域は地形上、クチベロ、カウラ、モンテオスキウロの三地区に分たれ、総面積約90万町歩にも及ぶ広大な地域である。

(イ) 地形及び地貌

地域の南部は山岳に當り北部に向つて緩傾斜をなし大平原の一部をなしてオリノコ河に接して居り、西部及び中央部にも500~800mの諸山が所々に隆起している。河川はオリノコ河本流が流氷、これにクチベロ河、トクラグワア河、シパオ河が北流して合し、諸所に低湿地を形成して居る。

この地域の大部分を占める平原及び丘陵地は草生地又は一部不毛の地をなし、森林は山岳部は叢生しているが、河川の流域の林相は極めて浅い。

(ニ) 土壌、地下水位、地下資源

この地域の大部分を占める平原丘陵地は砂地で、調査時が雨期明け直後であつたから草生していたが、乾期には枯死する部分が相当多いと思われる。河川流域及び森林地は植壤土又は壤土であり、簡易検定器による調査結果は何れも個所も酸度5.0~5.5を示し、有効磷酸は「含まず」又は「僅かに含む」、有効加里は「含む」であるが、アンモニア態及び硝酸態窒素は「缺く」、置換性石灰は「含む」程度で優良な土壌とは云い得なかつた。

地下水位はサンタロサリヤ部落において3米、地下資源は石油の自然流出をしている箇所もあると云うし、鉄、金、銀、コバルト等豊富であると称されるが審かにし得ない。

(6) 植生、草原の状況、林相

丘陵、平原地は耐旱、耐酸性の強い「サリッパ」と称する、禾本科植物が生えて居り、こゝに点々と土民が「シャボハ」と称して居る柏樹に似た耐旱性に強いと認められる樹が疎生している。

河川流域及び低湿地には柳子樹及び *cartan* 木、*acaps* 木、*congrio* 木と称する樹木が散生しているが、巨木はなく目高で1尺至程度のものがごく稀に冠覆けられる程度で葎類叢は平地に於いては少い。山部には樹木が繁茂しているが、登山は困難かつ危険で調査できなかった。

(7) 棲息動物

山地にはティグレ (*Tigre*) が棲息し時々井を奪う。

毒蛇も亦棲む。目撃したものの、大とかけ、小型のワニ *Pabo amarillo* と称する悪毒蛇。鳥類、昆虫類等豊富である。蚊は多いけれど、マラリア菌類、甲虫は甚だ目に見えないう。昆虫は身体中さされて西切する。

(8) 気象 (気温、雨量、風) (平均及び極値) (乾期及び雨期)

シウタホリパール市に於ける気象状況 (1952年統計)

(1) 温度	平均気温	27.3°C
	最高平均温度	32.8°C
	最低	22.1°C

(10) 雨量	年雨量	845.6 mm
	1日の最大雨量	56.5 mm (7月21日 9月14日)
	10分間の最大雨量	22.5 mm (7月20日)
	雨期における降雨量 (年)	733.8 mm
	乾期における降雨量 (年)	131.8

雨期は5月~11月、乾期は12月~4月で、7月8月の頃、2~3日敷しいスコールが降る。

(11) 風

風の方は年間殆んど一定し、9月~12月は北東風、1月~4月は北西風が吹き、冬期に吹く北西風は "Barrinas" 風と称し多少強いが暴風雨となるおそれはない。

(9) 社会的条件

(1) 入植予定地の過去の経緯

該地方一帯は60年前スペイン人により移住が開始されたが、

新以国家として鉱工業に重点が置かれ、これが建設発展過程にあるため、樺葉開拓の段階に達せず(自然地理的条件を早急には主要産業地帯になり得ないと推定される。)自然のままに放置されているのが現況である。曾って出逸は数人の技師を派遣して、3ヶ月に亘り地帯を詳悉に調査の上該地の購入を飛大統領に申出たところ、当時の政情の故か、拒否され争突がある。地下資源も豊富であると思われる。本地区に日本人輸入については親日家アリストケータ氏が推挙斡旋の勇をとりつつあることは争突であるし、亦該地に住み15000町歩の *Concession* を持つグロスマン氏を派遣して共に事業態に邁進した人である。この間の事情に、移住地として決定すべきかの否かの一つの要素があると考える。

(ロ) 附近の郡色と人口集居の状況

○ サンタ・ロサリヤ (*Santa Rosalia*)

州都 *Ciudad Boliver* から直線距離225kmの所にあり附近に点在する集家を含めて、住民300人、小学校1(生徒40人先生1人) 医師(中学校卒のみ)1 政府崗係職員9人の小郡府である。

○ クチベロ (*Cuchivero*)

Santa Rosalia を隔る約30km 土人部落15戸

○ マリパ (*Maripa*)

住民500人、カウラ河に臨し、分遣隊とて召募すべきか小員数の部隊あり、附近に政府の貯蔵庫1棟あり。

○ ラス・ボニタ (*Las Bonita*)

Santa Rosalia を隔る50kmの北方に在り *Rio Orinoco* に臨するが埠頭施設をなし、住民400人

○ カイカラ (*Caicara*)

Rio Orinoco に面し住民3,000、政府病院1、個人医師1あり。

(ハ) 交通通信関係

本州総地域のため陸上交通は極めて不便、候補地は *Santa Rosalia* を一応拠点として開発を進めるべしと思われる。これより州都 *Ciudad Beliver* とはノ週々往々人又は人乗の民間航空機による連絡を以てする。所要時間ノ時間30分。又 *Las Banita* まで50 km 自動車でも時間を要し、同地より州都まで週ノ回数頻あり、200ト船にて所要時間25時間

通信は、有線、無線ともなく、飛行機を以てする。

(三) 行政 (教育、衛生、警察)

前記主産部系には、村長と称すべきか部連長というべきか或程度警察権を保持していると認められる者かいるに過ぎない。課税される者も殆んどなく、自然破壊に悪まれて生を築きみ犯罪もなく、行政権が云々されるには余りに多天然自然が大である。衛生状態は住民の意識は甚しいので良好とは云えないが、マヨリヤに対しては息を用いその発生はない、重病人、買場着は飛行機でシウカボリパール市又はカイカウラ市に運ぶ各村にノ名位の衛生々居て教育に当たっている程度。

(四) 産業及び資源事情

自然のままに放置され地帯で産業として取り立てて言うべきものはなく生産消費の現状は自給自足の域を出ていない。

(1) 耕種概要

河川流域の森林を廃払いノア当リノ町歩程度、陸稻、ユカ、豆類、玉蜀黍、甘藷等を栽培し、肥料、また禾本科植物と豆科植物の輪作を行い収穫少くすれば放棄して新しく開墾する。

又自家用の甘藷、玉蜀黍等を耕作する。空地にはバナナ、パイヤ、レモン等果樹を植栽し、又は玉蜀黍、甘藷等を栽培する。家畜は肉牛の放牧を行い厩舎場を種々自然築造をさせている。経営形態はノア町歩を家族労力により原始的農法を行い、天恵によって生存している状態である。

主食の米は6月播種、11月収穫する。収穫は穂のみを抜き取り貯蔵、食前に原始的な臼、杵を以て脱穀調理を同時に行

っている。玉蜀黍は粉末として割り合はせて餅状として食す。
 収量(百当り)：胚乳3,000kg、玉蜀黍200kg、豆800kg
 (b) 標準生計費及び栄養、労働標準

この地帯の常食は米及び豆で食、天候により餅で生活出来る。
 1ヶ月の生計費20~50ポリバル、賃金は1日2ポリバル、都市労働者の1/10に達し。

(c) 市場価格調査

1956年
 州都シウダ、ポリバル市場における1ヶ月の調査は次の通り。

品 目	単 位	価 格
四 十 日 豆	1 kg	1.5 ポリバル
ユカ、製 品	1 ダース (1枚直径2尺、 程度のもの)	20.0
ニヤーメ (トコロモ)	1 kg	1.0
入 蔘	"	1.5
甘 米	1 袋 (50kg)	50.0
"	1 kg	1.25
12 人 12 人	"	4.0
メヌリット 豆	"	1.5
塩 豆	"	1.5
ゆ 水	"	1.5
南 瓜	"	0.5
玉 葱	"	0.8
馬鈴薯 (輸入品)	"	0.7
茄 子	"	1.5
ハ ム	"	7.5
ソ ー セ ー ジ	"	8.0
バ ー ユ ン	1 kg	7.5
食 用 油	4.5 l	17.0

コ	ヒ	一	ノ	Kg	2.0	ホリバーU
石		鉄	ノ	個	1.5	
食	卓	塩	0.25	g	0.5	
メ	リ	ケ	ノ	Kg	1.25	
ト	ン	板	ノ	枚	5.6	
(鉄選製品)						

(1) エルカウラ地区、入植の可否についての考察

以上の通り現地調査の結果に基づき私見として

- (1) エル・カウラと同一条件と見られる平塚地区は、オリノコ岡左岸で、この国の経済中心地帯に近い所に多少の存在し、エル・カウラ地区を特に送ばなければならぬ理由はない。
- (2) エル・カウラにおいて近代農業を営み将来発展するには首都又は主要農産地を結ぶ道路、鉄道の建設が行われてからである。
- (3) この地帯は交通条件が改善されたとして、北部及び西部の主要農産地帯より優位に立ち保る立地条件にあるとは云えない。
- (4) 将来を展望して移住者が入植するとして
 - (イ) 入植のための生産資料、農具家具道具等の搬入が容易である。
 - (ロ) 生産物の販路について輸送費が過剰である。発展するには船舶の所有、倉庫、卸付場の建設が必要とする。
 - (ハ) ラスホニタまでの道路がこの国の政府により建設されたとして、地区内道路、灌漑排水工事に相当の経費を要する。
 - (ニ) アリストケータ氏は入植初年収穫までには、家族当の1000円程度の用意が必要である由、かかる移住者は少ない。
 - (ホ) 社会文化施設皆無の現地に日本人が耐え得られるか疑問である。農産移住者としての第一陣が失敗すれば将来の移住の動向に大きく作用するので、成功し易い地区に入植した方が得策と考えられる。

以上のことから全面的に否定し去るものではないが、日本

移住者を現況のままですぐ送出すべきではないと判定する。

アルタグラシア地区 (カメホ農場)

1956年12月 農林技官 徳栄 節

(1) 土地所有者 トクトル・カメホ氏 (大統領の親戚、大警察判事)

(2) 面積 : 8000 ไร่、内可耕地 2600 ha と採する。

(3) 位置 : 北緯 9° 西経 66°30'

(カラス市南東方、86 km の地点にあり)

(4) 地形 : 北部山脈の南傾斜面に位置し、地区のほぼ中央を *memo* 河が横流し、起伏は皆んな所である。

memo 河は巾、約 30 m ~ 年中水ありと。

(5) 土壌 : 山部は赤褐色を呈し岩石が多いが低地は灰白色を呈する植蔵土、又は壤土である。

酸度は中性又は微酸性で肥力度中程度である。

(6) 気象 : カリブ海よりの湿気は北部山脈にさえぎられて解雨は少い。年平均 800 mm 程度と推定される。温度 30°C

(7) 交通、通信、及び都市 : 入植予定地より、16 軒に *Altigracia* 市あり、白人よりスペイン人により開設せられた立派な都市、人口 10,000 人程度。

学校 (小学校及び立派なキリスト教中学あり)、病院、市場 (日曜日毎に開設) 劇場あり。

首都カラス市より自動車にて 3 時間半を要す。電信、電話あり。

(8) 農業事情 :

(1) *Altigracia* 市附近には 500 ~ 600 戸の農家あり、平均 100 ha を耕作する資本家的経営、機械化農法を持っている。

(2) 同市一帯は旧くから煙草の産地として着聞。

(ハ) 地価。養耕地は市街地よりその坪以内はノ
ha²~2000 ポリバール、これより遠隔地は
1/2 以下となる。

(イ) 主作物。煙草、トマト、玉蜀黍、ピーマン
甘藷、豆類、ウリ類、陸稻

(ホ) 輪作。煙草、玉蜀黍、豆、トマト等市場と
にらみ合はせて輪作を扱っている様である。

(ウ) 煙草について

品種。パーシニヤ種、ブーレイ種

収量。ノhaより2,000 kg

価格。ノ担50センチで

煙草会社(アメリカ系)は種子の配布、指
導書の派遣、営農資金の貸与、倉庫を作り
検収する。

(ト) トマトノ種(ワカールと称す)石由種の割
ニ倍ノポリバール、品種は小粒種で支柱、摘
みを行わす。

(チ) 標準生計費及び労働。この地方の標準生計費はノヶ月2500ポ
リバール。但し男労働者の賃金は一般に低くノ日
(8時間 食費を含まず)ノポリバール

以上であるが帰国後ノ2月4日にカメホ氏が明らかにした条件は
次のとおりである。

(I) ノha 100ポリバールで売ってよい

(II) 土地の分譲は移住を条件として、数年々賦償還を認める。

(III) 株式会社組織として移住者を加入する方式でよい。

(IV) 単に小作契約をして、小作農として入植してよい。

カメホ博士の農場

1957年10月 農林技官 中田弘平

1. 位置

N. 9°50' W. 66°30' 標高 500~600 m オリノコ河の一

支流 *Rio Apure* の支流 *Rio Guavico* の支流 *Rio Orituco* の又
支流 *Rio memo* に沿った土地でカラカスから四方二つの山脈を
越えて、漸く大オリノコの流域に出た丘陵地にある。

2. 規模

全面積約 8000 ha 中 *Rio memo* の岸に沿う平坦地が半分位と
想像される。その中一度開墾された今は草生地になっている 60 町
歩と 20 町歩の農耕適地があり、差当りこれが開墾対象になる。
(他は密林)

3. 地形及び地貌

平地、丘陵地相半ばする。巾 20~30 m の *Rio memo* の上流部
が地区内を流れている。川底は砂利で解雨のあと以外は腐葉であ
る。水深は深いところで離まで位、床は狂泳出来る。

4. 地身、土壌

底土は砂岩の風化によって出来たと思われる赤味がかった砂質
土。所々その上を *Rio memo* による沖積土が覆っている。分析結
果は別紙の通り。

5. 植生

自然の林相はかつ栗樹の密林であるか、大木は少い。又高さも
中等程度で 20 m 以上のものは少い。

6. 棲息動物

小鳥の天国でその種類も非常に多い。その他は別に何もない。
(蚊も蚊も人間をおそろしうなるものは少ない。但し牛につくあぶ
は多少いるようで牛の皮下にゴブ状のかたまりが認められる。又
動物につくたにものいる。memo 河には 1 尺位の臭がいる。)

蚊が全然いないことは人間も動物も袂の空気を妨げられること
なく大変よい。移住者も蚊帳は不要ですと喜んでいた。

7. 気候

詳しいデータはないか思ったより涼しいのに驚いた。朝がたどろ
かすると毛布一枚位で付寝位である。日中は一時暑い。夕方
から朝にかけては非常に涼しく気候はよい。

この国では今、冬 *Invierno* といっている。そして11月から翌年3月頃まで乾期をさして夏 *Verano* といひ。気温は余り変わりかゝるらしいが、乾燥と湿じりんかどつういふ感じを感させるのだから。

8. 水 害

乾期に於ける水不足が一番こわい。これにはか人がいんせつを作つて備へることである。すでに *miemo* 岡の水をポンプアップして耕地に流す若干の施設はあるが開発が進むに従ひ施設の追加が必要である。

9. 入植地の過去の経緯

カメホ厚土の文の代からの所有地で一度欧州移民を入れて、彼等が喰ひ荒して他へ出て行ったあと蕪然である。取出しを理由は他により有利な仕事があるからでこの地で農業が出来ないからではない。

10. 附近の都邑

Atagracia がこの附近の中に地で一応品物は何でござらう。

11. 行政

Atagracia に行けば万般ととめてゐる病院をむろ人ある。

12. 特に入植地近傍の衛生

生水に注意すること。

13. 耕 種

この地では左ばこ、梅、落花生、バナナ、野菜（かいらしの如きもの）が有望である。

左ばこや梅は乾期に何って作付するのでか人がいが必要である（左ばこについては左ばこ会社から技師を派遣して万般の指導をしてくれる）。その地は雨期にやればよい。又バナナ等は年中である。

14. 輪 作

当分の間、左ばこを中心にして、他作物とローテーションする方針である。

15. 農業経営形態

目標農であるからカメ木氏の方針に従わねばならぬが要するに
有畜(牛、山羊)畑作経営で若干水田、野菜を作る。

16. 生計費

8人家族で月600のホリバーL B₀は対米ドル3:10で
米賃ノが3.33 B₀に換算される。B₀は日本の108円
円賃は農業者の平均でノ日食費つぎの程度(永く雇う場合)

17. 市場

カウカス、但しはばこは会社から引取りに来る。

以下略す。

カメ木氏の土地、土壌分析結果表 農務省

Resultados de los ANALISIS de Laboratorio

Ubicacion y no. de hoyo	1	2	3	4	5
Profundidad cm	0-30	0-30	0-35	0-30	0-25
no registro	32,618	32,619	32,620	32,621	32,622

Análisis mecánico

% Arena	16.00	33.60	21.60	11.60	19.60
% de Limo	41.20	40.80	41.20	55.20	46.80
% de Arcilla	42.80	25.60	37.20	33.20	33.60
Clasificación textural	arcillo limoso	franco	arcillo franco	franco arcillo limoso	franco arcillo
Equivalente de umedad	24.46	23.83	26.83	31.70	21.00

Análisis Químico

Fósforo (P) ppm	2.1 (MB)	4 (MB)	11.5 (M)	4 (MB)	1.5 (B)
Potasio (K)	19 (M)	25 (A)	40 (A)	25 (A)	18 (M)
Nitratos (NO ₃)	2.5 (B)	7.3 (B)	7.3 (B)	18.1 (M)	35.2 (A)
Amonio (NH ₄)					
Calcio (Ca)	647 (A)	823 (A)	1265 (A)	1117 (A)	853 (A)

materia orgánica %	2.95 (B)	2.00 (B)	3.52 (M)	3.55 (M)	2.43 (B)
P. H	6.5	6.9	7.0	6.8	6.6
Conductancia Eléctrica $mbhos \times 10^{-5}$	5	4	4	4	9

Notas: 1. Las abreviaturas utilizadas

MB = muy bajo, B = bajo, M = medio, A = alto

MA = muy alto

2. Solución extractora: (Análisis Químico)

Acetato Sódico 0.125 N a pH 4.2

3. Nitratos: Para transferir marcos a nitrógeno nitrato, dividirse entre 4.43.

Recomendaciones

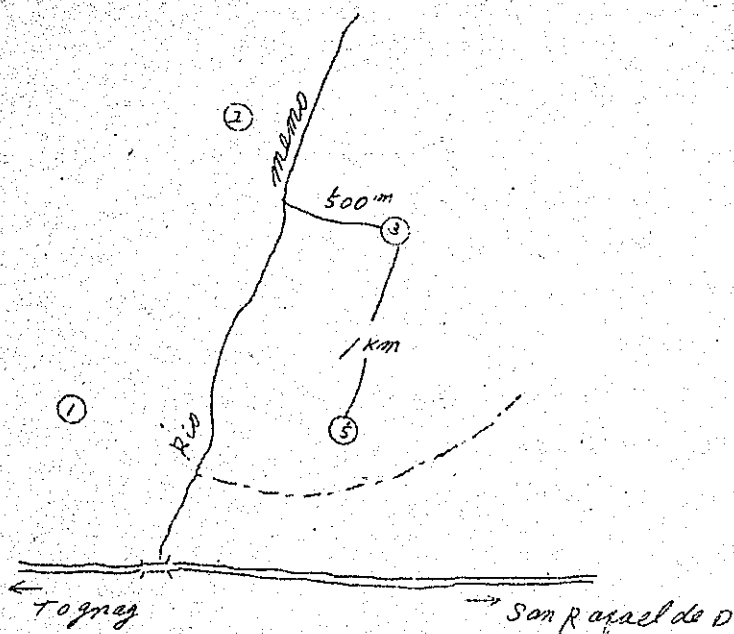
Considerando la información disponible y sus limitaciones (ver ADVERTENCIA) lo recomendamos la aplicación de los abonos siguientes

Ubicación Fórmula o tipo kg/ha Cultivo

No de Hojas de abono

1, 2, 3 y 4 16-20-0 300 PASTOS

Observación: Los suelos de las Hojas 2, 3, 4 y 5 son aluvionales, originados por el Río memo, son profundos y aparentemente de buena fertilidad. Se adaptan a explotaciones intervinos de tipo agrícola o ganadero. La topografía se presta para el establecimiento de un sistema de riego. La textura es en general bastante pesada. El contenido de fósforo y nitratos oscila entre bajo y mediano. El contenido de potasio entre alto y mediano. El calcio se mantiene alto.



私達がこの農地を訪ねる時は移住者が到着して5日目で、それまでは大抵か一箇月を走りてカメ木氏とは言葉が通せず、漸く行先をたいたかさてこれからどうしたぞのかと思案している時であったので、彼等は、非常によろこび迎えてくれた。直に植松氏を介してカメ木氏の計画などを話し、又彼等からの要望をカメ木氏に伝え、二日間食事を忘れる程嬉しかった。二日目の十時頃約束通り、米田製トラクター(35HP)が来て、技師が指導を始め、一月間の農中であつたか熱心に指導を受け、一応動かせるようになり、筋の土地2.4町の開墾を始め豊収益々上った。

それからなお色々の打合せをすることの時まで、移住者がカメ木氏と私達の来訪を非常に有益であつたと喜んでくれた。

この人達は多少の曲折はあるかと密心してここで農業をすることを固く決心している。又カメ木氏の意気込みが大変熱心であるので、これは成功すると思ふ。移住者の家族がカメ木氏を父の如く思っている。

私達は9時頃から19.0kmの山道を、おして歸った。これは植

松氏が上巻曰あけることは處處に違支えるからである。近年の山道は時々蕪蕪のため、車は時々進まない。途中スプリングが一本折れ、そのを修理する時間を入れ、カラカスに着くのは午前三時である。途中榎松氏を介して、タカメ木氏の意見をきいてるか志願に榎松氏の懇意と親切には全く頼り下がる思いであった。

カメ木氏、川崎大快の意見を総合して

この農場へは少くとも30戸の移住者を入れる必要があると思う(私は40〜50戸は入れると思うが、何れこのみに集中する必要はなからうという川崎氏の意見で私もこれに同意する)。入国許可については引続きカメ木氏と大快能てやってくれる予定であるので、寧ろ外務省から重荷があると思う。

クリマクワ (Curimagwa) 地区

1956年12月 農林技術 熊塚 誠

- (1) 位置 コロ市より64km、海拔1400m
- (2) 気候 温度 最低13°C
最高27°C

熱帯地において冷涼避暑、別荘地である。雨は随時適量にある。

(3) 地質、土壌

旧火山の流出物の分解生成による。土壌は礫性土層下ローム、土部は黒色土40cm以下赤土となる。

極めて礫性が強いが腐植分が多く割合肥沃である。

この慈土はコロ市に畑を庭園に入れ植栽用に供す。

(4) 交通、通信

4年而まで重陥なく、コロ市より2日と遅したと云うが、国道が完成、現在バスが30分毎に通る。所要時間1時間半

クリマクワ部系500戸、電燈、水道、小学校がある。

(5) 耕作状況 土民は従来のみま甘藷を作っているが、気候条件から麻葉、柘丹、果樹等の薦めを栽培、ヨロ布及びプラタ、フウヒヨウに出荷すれば利益は大であろう。

(6) 土地所有 公有地（租税は明かす）購入に際しては州知事と相談する。民有地を譲渡可能。

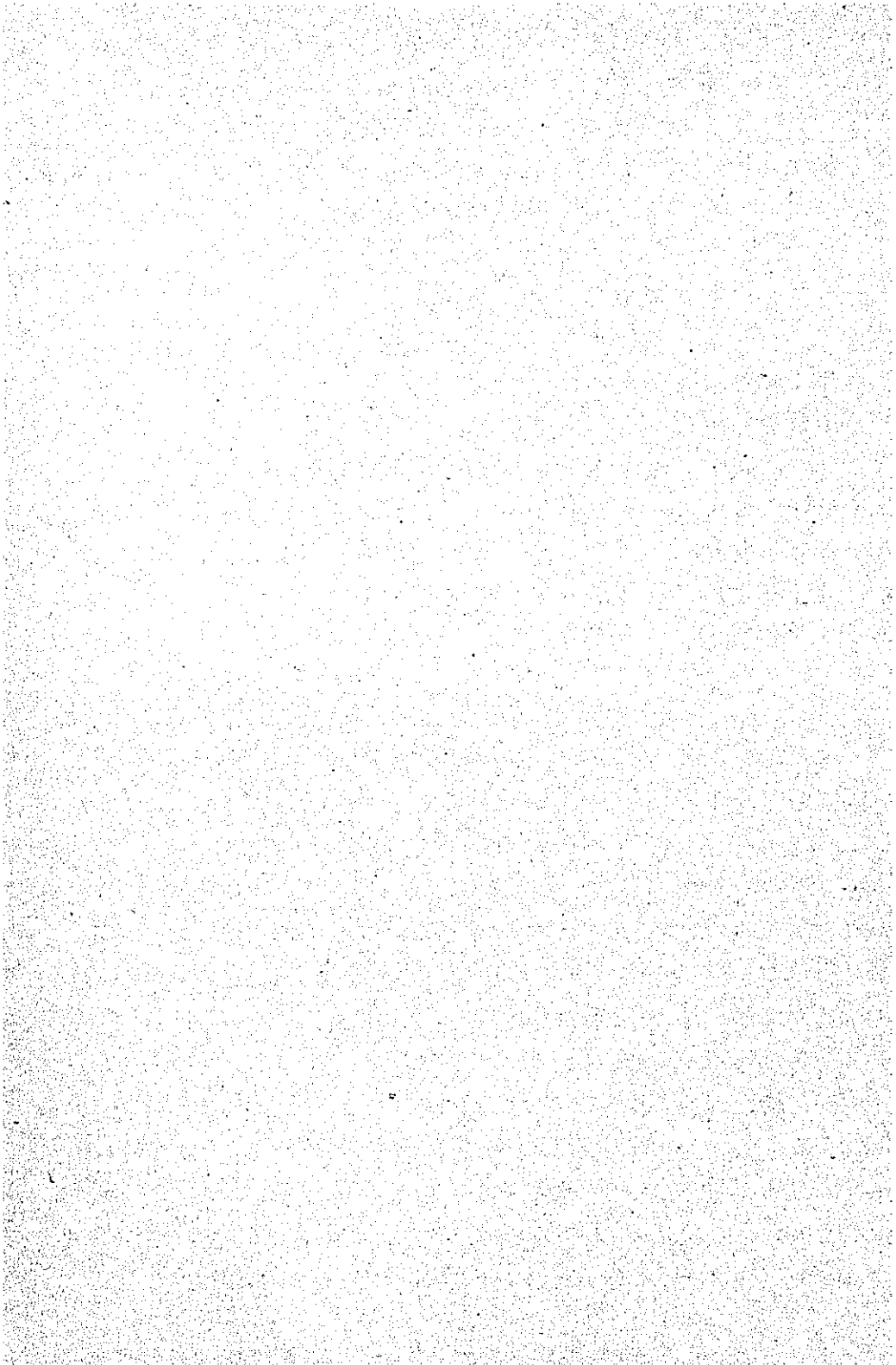
断格 ノ米平方の上畑 ノホリバール
反当 ノ〇万円に当る。

(7) 労 賃 ノ日々ホリバール 普通ノホリバール（倉庫あり）

(8) 撻息動物 鹿、ハヒ、野兔

調査者の意見

Curmagua地区は調査時間が短かく詳細にする事が出来なかつたが都市近郊にあって教育、文化、籍庄等の社会的諸処を利用し得るし農業に経験がある移住者であれば、地区の諸条件に適合して農業を営み得る将来有望な地区であると思う。



ベネズエラ概観

及びツレン並びにサバナグランデ

1957年10月 農林技官 中田弘平

1. この国では計画が計画どおり仲々進まないこと

前便にて第一週は *Dr. Kamejo* の農場、第二週はカンデラリヤ (*Candelaria*, 私の旅行日程中のキャプテラリヤは誤り) 第三週は *Marin* 近傍調査を計画した旨報じたがこの計画は第一週を除きあとはガタガタにくずれチットもその通り実行出来なかった。その原因は色々あるが、平直に言うと先ず日本大使館 (大使館の悪口を言うようで川崎さんに甚だ心晋しいが) 川崎代理大使は非常に移住に対して熱心で、種々この国の農業移住の有望なこと、重大な意議を説かれるが、要するにこれは議論に終って、具体的措置にはチットも及ばない。この国に日本人の移民の入らない理由の カン は法律問題にあって、この カン をときほごするためには日本移民を入れてその優秀性を彼等に認識せしめるべきである。然しこの見本を送るためにこの カン が邪魔をして送れない。(わずかにカメホ博士の農場にその端緒が開かれたのであるが)、これではいままでもっても端緒が先か卵が先かの望々めぐりでちががあかぬどこかにこのじゅんかんを突破する突破口を見つける手を打つべきだと思ふが、それが打たれてないように私には見受けられる。(大変失礼だが) 大使はなお、この国の移住問題は日本政府が積極的にやる気さえあれば、すぐにでも解決出来ると思ふ。それには「人と金」をよこすべきだと言われる。これはおもしろい。移住など大使館内では大使以外はどこぶく風で、テンテ相手にされない。私の調査に関しても大使館からは人は勿論、車一台出してもらえず全部民間の協力にまった。(もっとも大使は出してやりたくてもその人をもたないから)

次はこの国の人々が地下資源 (主として石油) の開発とそれを追っての国土建設にうつつをぬかして、農業の開発などの利潤のおそい仕事に熱を入れる人が極めて少いことによる。カメホ

博士などはその極めて少い人の中の一人で彼は遠大な理想から農業開発を望んでいる。政府はこの間において、最近ガリコ (Guarico) のダムを建設し、ツレン (Turén) の混合植民地をおこし (1944年) 又、一兩年の中にボコノ (Bocono) に大ダムを建設して、(何れも後に説明) いままで放てきされていたオリノゴ河とその支流沿岸の凶地農業に手をつけたのである。そして今年になって農業所得税率を従来の2%から1%に引下げた。その理由に曰く「我々は現在こそ石油資源によって非常に恵まれた経済環境にあるが将来原子力の発達にともないこの景気はいつまで続くか分らぬ。今の中農業の開発に手をつくし、確固たる国家経済の基礎を固めておくべきである。そのため税率を引下げこの発展を助長する方針である」と。

まあ一口に申せば、日本移民を拒否する法律があることも、又そういうものがあるのはけしからんということも、日本人移住者を導入すべしということも、この国の人々にとっては我々が日本で考えているようにさしせまった問題ではなく、むしろそれ以前の状態にあるのではなからうか。

以上の様な理由で私の調査計画如きはつい風のまにまに吹き流されるわけである。

2 Candelariaのこと

着カラカス早々、植松君を促して例の Breachenridge 氏の Edificio Royal Palace なるものをつきとめた。たしかに指定された部屋にオフィスはある。ところがそこにB氏はいなくて、ペロ人 Sr. Manuel なる人物がいて、B氏から話のあった土地は、乃公の所有地であるという。その下に二人の米人がいて、今会社設立の準備に忙殺されていると、色々の資料を見せられ、一応黙侍してくれた。B氏とは問えば、Manuel氏が答えて、B氏とは知合いであるが彼は二年前にもうこの土地に関する問題から手を引いたという。そして、二人の米人はB氏を全然知らぬという。(どうも話がおかしい。) 日本人移民をこの土地

に導入する意志ありやと問うと、それは、この会社（二人の米人が計画している、この土地の上に作る大農牧会社）に日本から投資をして株を買えばよろしいという。その株数に応じて某かの土地の管理を投資者にゆだね、これを会社に統括して、運営する方針であるという。(会社設立趣意書は別送)。そこでとにかく私はその土地を見たいから、ガリゴのダム見学かたがた案内を頼むと先方は一応これを引受け日を改めて同行の時を連絡するという。暫くして、次の日曜日に案内すると連絡があり、それでほとんどは時間の打合せなどにこちらから頼を出す、実は Manuel 氏の車は6人乗るので我々を乗せられぬ。我々は別の車で来るなら案内するという。よろしいそれでは別に車をつもりして行くことにし、いよいよ当日に電話すると、こんどは実は Manuel 氏は別の用事で行けなくなったと、言を左右にして、仲々意の如く動いてくれない。これではとても相手に出来ないと思っただ、その間にも度々榎松君を煩わして、会社設立趣意書などの資料を求め様子をさぐらったが、これは結局次の様なことでないかと我々二人の間で一応結論した、それは

Manuel 氏はガリゴダムの下の国営植民地の下流ガリゴ河沿いにたしかに10万町歩ばかりの土地を持っていて、金を持たない。そこで Breackenridge 氏と組み B 氏の金を投じてこれを開発することを目論んだ、ところが B 氏の計画がうまく歩らぬので、その契約を一応履行しようと思っていたやさき、こんどは二人の金をもたず頭をもっている米人が現われ、"金は大勢から集めればよい"とこんどの会社設立書を作っているのだから、そうこうしているうち、こんどの御手紙で能条技官からの手紙に Breackenridge 氏が又日本に来ると言うことだから益々わけが分からなくなる。(悪くかんぐるとどうもこの二人の米人は Breackenridge 氏と連絡のある私産を敬遠しようとしているようでもある。最後に案内出来なければ私独りで行くから現地の管理事務所を紹介してくれといったに対し、最初の説明ではヤン

と管理事務所もおいてあるといったにかかわらず、そんなものはない。人もいないという点など疑わざるを得ない。

それはともかく私としては、将来のための土地そのものを見ておきたいので、又日を改めて *Candelaria* 行きを計画することとし、次の行動に移る。

- ③ *Candelaria* 調査のことでモタモタしているうち10月12日の土曜日に、国の西の方アンデス山中の *Valera* という町で雑貨商を営み、若いが成功している志村という青年が、こんどカラカスで *Caderack*^{キャデラック} の新車を買ってこれを *Valera* まで廻送するという話をききつけ、好機逸すべからずとかねて私の旅行に同行を申出ていた *Sr. Asaka* (JETRO Japan External Trade Recovery Organ から派遣され滞カラカス二年になる通産省の専務官) をも誘って、植松君と三人でこの車に乗ることにした。

それには次の3~4の目的があった。

- (1) この国農産物の主要産地で旧くから開けている *Valencia* 地方一帯の農業状況を視察すること。
 - (2) アンデスを越え、アンデス山中の土人の農業を視ること。
 - (3) 後で説明する *Guidio Abreu* なる人物の所有地(13,000町歩)を見ること。
 - (4) この国の代表的混合植民地 *Unidad Agrícola de Turén* を見学すること。
 - (5) かたがたこの国の上方ともいふべき *Maracay, Barquisimeto* など主要都市の発展状況などを見ること
- である。はからずも四日間に行程1,600kmに及ぶ大自動車旅行となった。

最初の日には朝6.30にカラカスを出発して、途中、*Maracay Barquisimeto* でそれぞれ雑貨商をしておられる、米倉、稻本氏の宅に立寄り食事を供されながら *Andes* 山中の目的地 *Valera* に到着したのは夜中の12時になった。道は勿論全部水装されて

いるが、目下これにほぼ並行して *Pan-American road* が建設中で一部出来上り、この道にのると、140~150 km のスピードで走るといった調子である。(*Pan. American road* は本年12月2日までに完成予定で、これがアンデス山麓をぬってコロンビヤまで続く)

第2日は前日皆大分疲れたのでおそく起き出でアンデスの嶺を突破して *Boconó* までとした。この間の道は *gravel road* で、7曲りどころか70も80も或は何百もの大曲り小曲りを車は通る、高い所は標高3000 m の雲の中を行くので、あわてて上衣のえりをかき寄せ程である。熱帯だけに3000 m でも樹木ははん茂している。風光絶佳である。

到着した *Boconó* はアンデスの東側の山麓にあって標高1250 m、この国内でも一番気候のいい所といわれ、年中日本の10月頃の気候である。こゝに独人の経営する *Country Hotel* (一名 *Stein berg*) という極めて閑静で見晴らしのよい(然も安い)ホテルがあって、独人親子から *at-home* なもてなしを受け、全く気に入った。朝眼がさめると色々な小鳥の囀りが耳に入り、うぐいすの音もする、つばめも飛びかっている、珍らしいのでは親指程のはち鳥が花から花へ蜜を求めているといった具合。

第3日は *Boconó* から雄大なアンデスの溪谷美を眺めながら下り、*Guanare* に出で、ここからこんどはアンデスの東面の麓をぬって走る別の国道にのり *Abreu* 氏の所有地 *Sabana Grande* を見乍ら *Barinas* に至り、夕食後又引かえして *Acarigua* に泊る、尙地に下りたので大酷暑い。

第4日は早朝から *Tuén* の国营植民地を視察、現地の管理官 *Jose E. yepes* から説明と地区内を案内され、それから一路カラカスに帰った。帰りついたのは夜の九時過ぎになる。この旅行から私が得た結論はおよそ次のようなものである。別送する地形図から分るとおり、カラカス以東は別としてカラカス以西について言えば、オリノコ河に注ぐ何百本の支流が恰度からかさの骨を

振げたように配置されていて、その先のところを海岸にそって、大アンデスの北部とそれに続く支脈がぐるりと取りまいている。(Maracaibo 湖を中心とする大畑地帯は一応別あつかいとす)オリノコ河はこれらの山々から出る水を黒めて大西洋に運んで行く、そしてこれまで農牧に利用されている土地は、この山間部又は山麓に開けた平野部であって、標高 200 米を下るものはない。Varencia を中心とする旧くから開けた農牧地帯は流石に整頓された大農場、大牧場の連続で、牛と、甘蔗、棉、玉蜀黍、ココ、バナナなどの作物が整然と作られている。(標高 400~500 m)。又アンデス山中には 2000 米以上にまで元住民の畑が山の凹み凹みを利用して傾斜 30°位まで作られ、玉蜀黍、ココなど作付され、街道の両側には大木の陰に一面にコーヒが密植されていて赤や青の実をつけている。土は、標高 200 米以上の所は山麓の丘陵地帯であるので、沖積層の赤土と、沖積層の黒土と入り交っており、赤土の所は牧場に、黒土の所を選んで農耕が行われている、ところがこの 200 m の線を下るともう丘陵は姿を消し、こんどは一面の沖積平原で、黒々とした見るからに沃土の連続である。この沖積層はオリノコ河まで続く (Turén の Yebes 氏説) のであるが、これが従来放てまきして省みられなかった(悪いから)農産を大々的に興そうというなら当然この千里の沃野に着目すべきであり、その端を開いたのが Turén の混合植民地であり、Guarico ダムを構築する手前で 1~2 年の中にこれが完成すればいよいよこの平原の開発が進められるわけである。(まだまだ全体から見ればホンの着手の域を出ないか)

4. Turén の混合植民地について (別図参照)

これは先ほどの 200 m 以下の沖積土をねらった大規模の開拓である。1949 年に開始以来政府は 80 億円 (概算) の国費を投じたという。総計画面積 20 万町歩の中現在 28,000 Ha が完成した。中心施設はアメリカ式に完備され、緑の芝生と木立にかこまれた本部事務所、学校、病院等完備し、試験場、大規模の加

工場 (*Maiz, Arroz* 等の乾燥キヤノ万屯入りのサイロなど) など全くアメリカ式に整備された大蔵場である。圃場では目下乾期に向っての播種準備の耕起が行われており、トラクターが引くディスクプラウが10町〜20町に区切られた圃場の端から、モリモリと黒土をすき起して行く。ここに立って見渡すと一望千里と言いたいところだが、一枚の圃場すら充分見渡せない。

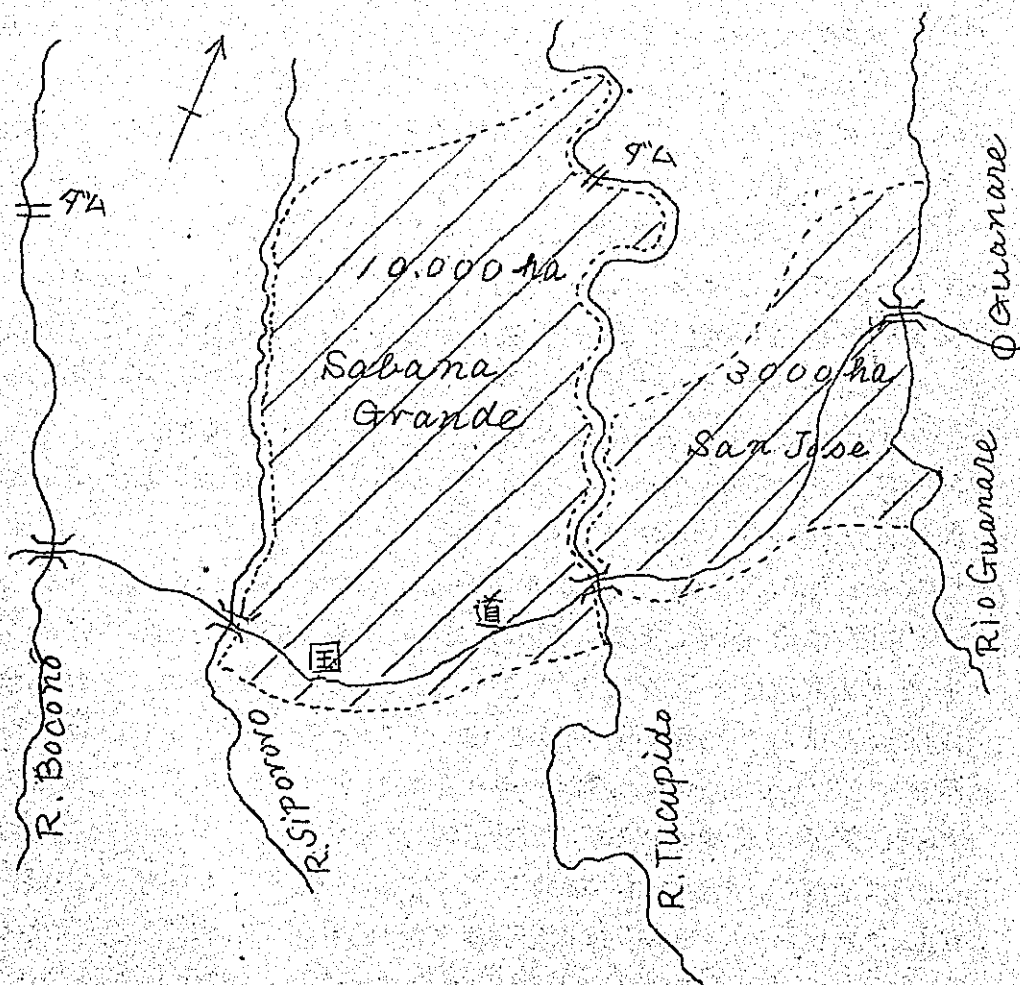
入植者は *Venezuela* 人 394 (家族以下同じ) 同帰化人85 ユーゴ55, スペイン54, ドイツ18, フランス7, イタリ101 ルーマニア55, ポーランド7, 米国5, チェッコ4, コロンビヤ, ハンガリヤ各3, オーストリア, 英国, 丁株, リトアニア, ドミニカ, ノールウェー, ポルトガル, ロシア, スエーデン, ウクライナ各1, 計 760 (family) で、彼等は 25~75 ha の土地を与えられ、2年の試験期間を経た後土地と家屋を20年間で払込み独立する。かんがいは地下水により、地区内300個所にディーゼルエンジンつきポンプがあり、それから耕地に配水する。(地下水位は6~10m) スペイン人に聞くと年間純収入、100万円位が普通で自分は機械の借金と、土地家屋の年費を払って、若干の余剰を出しているとのことであった。私ほうかつなことに土地生産力(単位面積当)をきき忘れ大変残念なことをしたと思っているが、一流の生産力のあることだけは各所に見える作物の状況からでも想像がつく。

5. *Abreu* 氏の土地 *Sabana Grande* について

この人は金持の実業家、*Avance* (英語の *Advance*) という雑誌(見本別送)の発行者で *Barguisimeto* に於ける工科大学の経管理事者で地質学者(後で分った)という、熱のある紳士である。偶々私は日本大使館で紹介されたが、こんど *Bocorõ* に出来る予定の灌漑用ダム(灌漑面積50万Haで、*Guarico* への5倍の *Capacity* を有つ)の下流に自分の所有地12,000 haばかりあり、日本人の移住者(移住者という考えは余り彼等にはなくてむしろ日本人をとという方が適当かも知れないか)を入

れて開発してはどうか、相当の援助をするとの申出であった。
 (この人のもっと大きなねらいは日本の近代物理、化学機械類
 を *Barquisimeto* 工科大学に陳列させ、学生を通じて日本機械
 を国内に宣伝し将来これを商品化しようという点にあり、このこ
 とは JETRO の 浅香君との間に話が進行中で、移民はいわばそ
 の肥き合せといった感じである) 自動車旅行の途上これ(土地)
 を概観したが、国道をはさみカラカスから 460 km. *Boconó*
 グラム群の直ぐ下流に当り将来非常に経済的有利な位置を占めている。

アンデス山麓



地形はアンデスの長い山脚が正に平野に没しようとする標高 200m の附近にあって、丘陵部と平地との交さくした形である。従って一部洪積層の赤土と、平坦なところは沖積層の黒土とが入り交っているものと認められる。(カメホ氏の農場も標高はもう少し高いが恰度この様な地形で今少し丘陵の部分が勝っている) 国道をカラカスに向って走ると、左はアンデスに連なる丘陵の起伏が見え、右はオリノコ河まで続く全くの平坦地である。植生は一部密林、殆程は *Savana* になっている。充分の調査をする時間的余裕を拵たなかったが次の有望な候補地としてあげておく。

6. カメホ博士と米倉さん

カメホ博士は前にも度々書いたとおり、大審判判事までした、人望ある現弁ご士で、この国では仲々得がたい人物、然も親日家である。米倉さんはペルーノゴ耳、この国20年その他ブラジルのアマゾン、ボリビアのサンタクルーズ州などあまねく南米を歩いた造詣深き人で、主に終戦後カラカスで財をなしたと思われる。今では押しも押されぬこの国の在留邦人代表者で熱心に移民を心配して下さる。両者の交りは旧く、肝たに相照らす仲である。当分は川崎大使とこの両人とで出来たトリオに信頼して、カメホ博士の農場に立派な人を送り、これをモデルファームとすることに力を注ぐべきであると思う。(米倉さんの御意見でもある。)

7. 再び *Candelaria* について

私は *Turén* の植民地、カメホ博士の農場、*Abreu* 氏の土地など見て歩いた経験とこの国の地形図(アタゴ千探し歩いていると遂にカメホ博士の紹介で *Ministerio de Obras Publicas - Direccion de Cartografia Nacional* 発行の十万分一地形図なるものが手に入った。相当高価を払わされたが私としては雀躍せんばかりによるこんだ)などから判断して、この土地そのものは絶対間違いない土地で *Breacken ridge* 氏の談話を鵜のみにして差支ないものと想像する。然し現地を確認することなしに断定することは調査者としてとるべきでないと思う

ので、ここで一週間この国の滞在を延長して（ベレン行きは1週
1回しかない）最後にこの土地を確認しておきたいと思う。

8. その他

小規模の所有地で日本人を入れて開発したいかという甲入れが
大使館に2~3求めているようである。例えば、北海岸で最近大化
学工業地と目される *Marón* の近傍に土地をもつ（4000 ha）
下院議員 *Dr. Antonio Reyes* からの申出などで、然し時間の
関係や手ちがいなどで調査するに至らなかった。

ここまで書いて来ると、この国における私の仕事は一応終った
ような気がする。どうも広大な国土にタッター人で、わずか3週
間や4週間ではろくな仕事も出来なかったような気がするし、又
私が来たことが一つの刺戟きになって次の展開が望まれるような
気もする。オリノコノの右岸など海のものとも山のものともテンデ
見当もつかない。（金、銀、ダイヤが無数に埋蔵されているとも
言うが）

どうもこの国は諸事万端 *expensive* などところで、ここで大
分足を出したようであるが、ままよと24日次の *Belem* に飛ぶ。

Unidad Agrícola de Turén 1952-53

Productos Hectáres Kgs Bolivares

<i>Maiz</i>	7,583.50	12,000,000	3,600,000.00
<i>Arroz</i>	4,111.00	6,725,888	4,170,050.56
<i>Cañata</i>	5,462.00	2,848,456	2,264,218.48
<i>Ajonjolí</i>	970.00	663,400	796,080.00
<i>Otros</i>	76.50	91,800	367,200.00

ガリゴ植民地

1957年10月 豊林技官 中田弘平

23日朝5時、前日借上げを約束した車でカラカスを出発、例によって植松君に通訳を依頼した。途中 *San Juan de Los Morros* までは山又山の連続であるが、この辺で漸くオリノゴ河の流域に出で、あとは次第に山も低くなり大オリノゴに向かって漸次下り坂の多い緩傾斜となる。(カラカス—サンファン間 125 km) サンファンは旧くから開けた露勝の地で附近に珍らしい奇巖が立つ立し、清流をめぐらし、温泉まである。最近附近に騎兵隊の新しい兵舎などが出来とみに賑かになった。(標高は600 m位か、非常に涼しく気候もよさそうだ)

ここを過ぎて50 km *Dos Caminos* までは、相変わらず起伏の多い丘陵地帯で、山脚が長く長く南に向かって並び道の両側は次第に視界が開けて、大平原の様相を呈して来る。*Dos Caminos* から更に南方20 kmの *Marocoyes* という寒村を過ぎるころより、いよいよ道は *Guarico* 河の流域に出で、こんどは立木を所々交えた *Savana* となり、さえぎるものもなき大平原となった。ただし依然として多少の起伏を残し、一面の沖積原には仰々行きつけない。

カリゴのダムはこういう地帯の所で *Guarico* 河の水を土堰堤をめぐって締切り、灌漑用水を貯めると同時に、一大水面を作って、附近の気象を調節するものと受取れる。私達はダムそのものの築造技術は驚くに当らないが、その規模の雄大なること、*Esso* の発行する1/67万分の全国地図に今年から *Represa de Guarico* という一大湖水が現われたので分かる。ダムの完成は今から約1年前、昨年11月2日で附近はいまだに工事現場のあとまなましい。私達は日本人として始めて地上からこのダムを視察し、次に *Guarico* の国営植民地を訪ねた。(11時)

この植民地は前出 *Turén* が穀物生産を主目的にしているに対し、ここは肉牛の生産を主とした主畜農である。概要次の通り、

1. 本部施設 近代アメリカ式に完備し、ホテル、大食堂、クラブなど大荒野のまん中にも思えない。職員住宅、Vacationを利用して農林省職員家族が泊って行く家なども100棟程完備している。(別に送る案内書を御覧下さい)
2. 規模 総面積75万陌、中11万陌を第一期計画として今実行中である。

灌漑水路は18kmを完了、あと21kmは今月中に完成予定、幹線水路は $90 m^3/sec$ (Max. $110 m^3/sec$)の通水能力をもつものである。尚次の20kmの工事を来月から着手する。

3. 道路は地区内 gravel-road を全部完了、幹線はアスファルト舗装してある。
4. 1農家当面積は180Ha~210Ha平均200Haで、1ロットずつ、有刺鉄線のサケが出来ている。

個人施設はその200Haの一角に、5反程の別の区割をして、住宅一棟(5間×10間位)畜舎(追込式食槽、推肥積揚つき50頭位入る)一棟、農機具など入れる納屋一棟、鶏舎一棟の外家畜追込み柵など備付けられ電灯、水道(タンク)など完備している。

5. 土地は沖積土の全くの平坦地で一度すき起して、キューバから取りよせたと稱する、通稱 Para という日本の草の小さい様な牧草が一面生えているところと、一部陸稲、玉蜀黍などの畑などあり森林が所々に残してある。

6. 現在までの入植戸数は50戸でまだ1割にも達していない。60%はベネズエラ人であとは欧州人である(Turénの場合と同様各国人が入っている。)

入植の条件は ① 結婚していること、② 当座の生計費として10,000 Ba (約100万円)を準備すること、これ以外何の制約もない。国籍など全然問わないが言葉が出来なければ困るだろうといった。

農家の負担としては、前出100万円の手持金の外に、土地代(Ha 当1600Bz、個人施設、水路、道路等全部含めて)を年利率2% 2年掘匯、28年毎年で償かする。

機械は政府がCreditを与え年利率6% 5年で償かする。家畜も同様

農耕指導、生産物の販賣、種子肥料の斡旋その外は全部本部がやってくれる。

凡そ以上の様である。こゝに日本人農家が入って200町歩の農業をなし得るだろうか、正直の所私は本部施設の余りに立派なのに氣おくれして、ここに日本人農家を入植させてくれとは恥かしくて言えないような氣持であったが、地区内の農家と農地の施設を見るに及び「これならやれる」という確信を得たのである。

何故なら先ずこの本部職員は所長始め幹部まで顔色から、体格、服装に至るまで私達と全く同じである。(私は作業服を着て行った)そして私達に極めて親密感を持っている。

第2に農家の個人施設は完備していて、最悪の場合もって来た100万円を喰いつぶすまで黙って見ておればよい。(大家族でも100万円を喰いつぶすには一年はかかる) そうすればひとりでに牛が仔を生んでふえるではないか、二年目からふえた牛を売って行けばよろしい、この手であると。

およそこゝの植民地なりTurénの植民地なりを視察して私が強く感じたことは、入植者の国籍などは全然問題にしておらず只農業に強い意欲と労働力を持つ家族を求めているということである。そしてこの地区がその様な農家で満植になるのは何年先であるか私は疑う。

Turén, Guaricoそれから最近出来る予定のBocorno(前報告)といい、いおれGuama河の植民地やホリビヤ、サンファンの植民地におとらぬ大規模植民地が、前述のように絶大な国家援助のもとに着々実現しつつあるのであって、これを私達が傍觀していて然るべきであろうか。私は日本移民がこの事業に大いに参加出

来るよう、関係者はあらゆる手段を講ずべきであると思う。そこで私は次の専断を提案する。

日本の農畜産に関する各方面の技術をもうらして若くて優秀な学徒のノセット（10人位）を日本政府の負担において二年位の予定でこのGuarico 植民地に熱帯農牧研究の名目で送る。彼等には日本の工業部門が得意とし、この国が切望している機械類（例えば電子顕微鏡や高級カメラの如き）を持たせてよこす。彼等はGuaricoの本部施設を利用して研究に従事（研究材料はいくらでも手許にあるから）しなから言葉を習い、友人知人を作り、同時に色々の実跡を種いて日本農業技術の優秀性をこの国の人々に認識せしめる結果となる。その際には日本農民のこれらの地区への入植は極めて容易になるうというのである。以上のことは私のベネズエラ調査の結論とも言うべきものであって、在ベ二年の植松君も全く賛成であるのでどうか真剣に御看え願いたい。なお人を送る道は駐日ベ国大使を通じ請せはよいと思う

Manuel Sarmiento 氏の土地（Bredckenridge 氏から話しがあった土地）について書かないで終ったが、この土地は、Guarico 植民地のすぐ地つきで最近は何り売り切り売りで4万Ha 余に減っているようである。（別送地図参照）そして両氏の関係はこの植民地事務所長の話しによっても私の前報の想像が当てているようである。

従ってもしBredckenridge 氏が日本を誘れ再度話しかけるならば、この政府植民地との関係やその条件などを考慮に入れた上これに應ずるも決して悪くはないと思う。

ドミニカ

ドミニカ国の概況

1955年9月 櫻杯技師 江藤 章

ドミニカ共和国に対する現地調査は、1954年8月末トルヒリヨ将軍により、同国駐在日米代理公使に対し約一萬家族の日本人移住者を開国ハイチとの国境地帯に受入れる計画が提案され、これに基づいて1955年9月から約1カ月間の予定で行われたものである。なお、これに先立って1954年8月同将軍のスペイン訪問の解決したスペイン移民受入は、1955年1月から開始されている。

ド国の移住地は政府植民地であり、一切の受入は政府において行われる。即ち水道、飲料水施設及び宿舍の建設並びに土地の開墾整地は政府において原則として入植前に行われる。その外、上陸港から移住地までの輸送、植農指導が行われる。このため各移住地ごとに政府の管理官が配置される。

ド国における移住地は、多くの場合日本人移住者単独のものではなく、ド国民、日本人以外の外国人等との混在の植民地である。しかし、その建設に莫大な国家投資を行う関係上、これら植民地の開設に当たっては、自然的、社会的諸条件の検討が充分行われる。

今後、これらの植民地の開設される主なる地帯は、同国においてほとんど人口希薄であり、開発のおくれている西部地帯であろう。この地帯は主として山阿部で、平野部では乾燥地帯でかんがいが必要とするので、大面積の植民地は設定できない。従って、入植者の経営規模はかかる条件下にあること、と前述の如く莫大な国家投資を要すること等から比較的小規模とならざるを得ないことと住居は密居式となるので、住居と耕作地は分離されることとなり、一般に南米各国の移住地とこの様相が異なる。

同国は、カリブ海にあって面積は約48,000平方キロで、北米の九州、四国を合わせたものより若干狭く、人口は230万人(1952年)程度である。また、主な産業は農業とこれに関連する

加工業で、他はほとんど見るべきものはない。しかして貿易収支については永らく輸出超過を示し、同国のペリは米ドルと等価を維持している。ノタゴム年の輸送状況は、德國ノ億二千五百万ペソで砂糖が千七百万ペソ、コーヒー二千七百万ペソ、ココア二千五百万ペソ、煙草が百万ペソ等であり、輸入状況は機械器具、車輛、繊維類が主なものである。その総額は約九千七百万ペソである。

かかる状況下において、移住者の受入条件は比較的良好で、具体的な取極めを行う段階には至らなかったが、既に行われている他の外国人移民の受入条件を下回らないうよう申入れを行った。(ただし渡航費について日本側において負担するよう要望があった)。なお既に行われているスペイン移民の受入条件は概ね次のとおりである。

(a) 渡航費

スペインからト国までの渡航費はト国政府の負担であり、移民中スペインに帰国を希望する者のみ出立の場合その帰国旅費はト国政府が負担する。

(b) 住居その他

住居は工賃約ノ五千ペソ(5米×10米)の独立家屋の建築で賚与せられ、また家具、什器を贈与せられる。飲料施設はト国政府の負担で設置せられる。

(c) 土地

ノ世帯当り50~500クレア(1クレアは0.0691)の土地が配與。墾地の上限償還年(約8年~10年無償償還)せられる。現在独身者には50クレア、家族移住者に対しては200クレアを最高としているが、必要に応じ更に増加せられる。

(d) 農具、種子、肥料等

手農具一式、当初6ヶ月以内の必要な種子は全部支給せられ、肥料も6ヶ月以内の限り必要に応じ支給せられる。

(e) 学校、病院施設

児童100人に対し、一棟の学校が設置せられ、教科書、文具等は一切無料支給。病院又は診療所は50世帯に一棟設置せられる。

(7) 生活補助

病 / 回復までの期間(約6ヶ月の長さ) / 人 / 日約0.6ペソ及び乳汁 / 立 / 支給される。出産の場合は、子供 / 人に対し6ヶ月間を / 限 / 日 / 0.6ペソの哺育手当が支給される。

(8) 結婚奨励金

出身 / 男子スペイン移民が、ド国女子と結婚する場合は / 1 / 5 / 0 / ペソの奨励金が支給される。

ダハボン地区

1955年9月 農林技術 近藤 章

1. 自然的条件

(a) 位置 (緯度、経度、標高)

(北緯 $19^{\circ}35'$ 、西経 $71^{\circ}40'$ 、標高50以内)

当地区は *Libertador* 県 *Dajabon* 市街地近郊の *Vijia Canonigo*、*Los Arroyos* の總称である。

Vijia Canonigo は *Dajabon* 街北端より4kmの地味より国境道路沿いに *Monte Cristi* 県境まで西方に展開する地帯であり *Los Arroyos* は *Dajabon* 街南端国境道路沿いに2kmの地味より西方1kmの地味より国境道路沿いに概ね南北展開する地帯である。

(b) 植民地の規模

当地区は、概ね10万タレア (*Vijia* は5万タレア、*Canonigo* は5万タレア、*Los Arroyos* は5万タレア) と称される。但し、当地区は既に一部現地人の耕作放牧が開始されていること、浸水箇所 (*Vijia Canonigo* 西端をほぼ国境道路沿いに南北に流れる *massacre* 川の泛滥による) があり、また、耕作不適地もあるので実寄り適地は10万タレア程度ある。なお、浸水地帯は地味肥次であり、将来同地区の開発上充分検討の上これを活用する必要がある。また、*Los Arroyos* は既耕地も多く、浸蝕を受けている箇所も相当あり、利用可能地は極く僅かである。

(c) 地形及び地貌 (平地、丘陵、沼沢、河川)

Vijia Canonigo、概ね平坦であるが、*massacre* 川沿いの浸水地帯一段と低地 (5~10mの差) をなしている。北端に小段地帯があり、また2~3の小丘がある。とくに *Vijia* 南端には約30mの小丘があり、これは国境警備の見張り所がある。*Los Arroyos* は平坦で扇状の浸蝕を受けている箇所 (3箇所) がある。

(d) 土 壌

採取地号	PH (KCl)	有機物	礫石	換灰	色	土性	備 考
101 (Vijia)	5.5	含まず	頗る密む		暗褐色	植対植土	
2 (")	5.5	"	"		"	"	
3 (Canongo)	7.0	"	"		灰 色	液 土	
4 (")	5.3	"	"		褐 色	植対植土	
5 (Vijia)	5.6	"	"		暗褐色	"	浸水地帯 (巨木)
6 (Canongo)	5.6	"	"		"	"	
7 (")	5.6	"	密 む		"	植 土	
8 (")	5.6	"	頗る密む		褐 色	"	

(e) 植生、林生

Vijia Canongo 浸水地帯は天然の椰子での地巨木が比較的密生し、この地の地帯は疎、樹木の大小共に差異が甚しい、灌木はカランボバ、カンブロン(硬木)、マイユラ、天然の柑キツ類である。
Los Anogoo マホガニー、ホーホー、クワシマ等の森林で樹高中等程度である。

(f) 生棲動物

特記すべきものはないが、蚊、小鳥は多い。

(g) 気 象

気温は、年間平均25度9分、最高28度4分(8月)最低22度(1月)で、日別の最高、最低は資料なく判明しないが、夏季における日中は相当暑いが因全体が貿易風(東より西へ)の影響で暑いが、夜は比較的涼しく湿度良い。

降雨量は年間平均1200~1300mmで、1942年には1940mm、1953年には1450mmであった。1~3月は乾燥で降雨量が極端に少く、この期間に降雨のない年もある。

2. 社会的条件

(a) 入植地の過去の経緯

当地区は因機地帯であり、かつ雨量が比較的小いため、開発が小

くれているが、かんがい施設の匪窟に伴い逐次開墾され、1946年ノノ2名のド国人の国内移住が行われ水田耕作が行われている。また、政府に対し、土地の譲渡申請がなされている。

(b) 主要作物の耕作施設

永年作物は特産すべきものはないが、バナナ(アラタ)、メネオ及びかんきつ類の栽培は可能である。

普通作物としては、ユカ、玉蜀黍、落花生、煙草、米、豆類、野菜類である。

とくに米についてはかんがい施設を利用して水田作が行われている。また煙草は目下匪窟の新設を予定しているため、今後有望な作物と考えられる。

主な作物の隔年収穫(Dajabon 所在の農学校における聴取)

ユカ 2,100 kg (粉)、玉蜀黍 250 kg (米)、落花生 1,500 kg (カラハ)、米 1,200 kg (モミ)。

(c) 災害事情

水害は台風季節(8月15日~10月15日)において massacre 川の氾濫により浸水(1年に3日~4日程度)を受ける地帯があるが、風害は殆どなく、干害のおそれはあるので、かんがい施設後は必要である。

病虫害は、各作物について予想されるが、栽培の歴史から新しい(1954年より)ので現在のところ被害はない。

(d) 交通 郵政 人口

1. 入植予定地の東方2.5軒の地点を国境道路がモンテクリステイからダハボン街を経て南下する。なお、モンテクリステイ、ダハボン間は1日2回バスが往復する。

2. Dajabon は Libertador 県の県政府の所在地で人口は、1952年(7月現在) 9,415人(県の総人口 27,712人)である。ドミニカ国支部、裁判所、警察、密輸隊、郵便局、病院、商店、農学校(寄宿制)の各施設があり、入植予定地入口までは6.6軒である。なお、南方国境道路沿に Lame De-

cobena (当県の農業の中心、人口14500人)、*Restacion* (3800人)がある。

ハ、*Monte Cristi* 街は (*Monte Cristi* 県政府の所在地) 人口11,045人 (同県総人口52,243人) で入植予定地人口より30軒である。又国内航空の飛行場があり、週3回、プエルト、プラーター、サンティアゴ・トルヒリオ間を往復する。所要時間1時間30分、5ペソである。

又、サンティアゴ・トルヒリオ間は週6往復、所要時間1時間、5ペソである。なお、入植予定地からサンティアゴまで1100軒トルヒリオまで300軒である。

ニ、*Pepillo Salcedo*

4242人、モンテ・クリスト県南西 *manzanillo* 港にのぞむユナイテッド・フルーツのバナナの輸出港で、1万屯級の船舶の入港は可能であり、税関を始め各種の施設が整備されている。

なお、入植予定地人口までは22軒である。

(c) 産業及び職業事情

リベルタドル県は特記すべき工業はない。ロマ・デ・カブレラは、木材工場がある程度である。

農村工業としては、木炭製造、ユカのトルグ、密蜂、密ろう燭煙草等がある。

農業にらいては特記すべきものはなく、1952年以來煙草の栽培に努力しつらあって、目下甚麗の設置を計画している。

(d) 生計費

トミニカ国は、農産物及びその加工品を輸出して、換紙類、織物製品、雑貨等を輸入しているのであるから食料以外の生活必需品及び娯楽用器材物資は比較的割高となる。しかして、首行 (各商館の輸入港) と地方との価格差があつて、僅少なから比大な高し。

この国におけるスペイン移民の場合は1人/日の食費 (自給できない6ヶ月間) は0.6ペソである。

3. 開発計画

イ、道路の外、各種公共施設及び住宅、井戸その他個人施設については、本国政府の負担において入植後直ちに利用できる如く準備されると共に、上地については配分予定面積の100%、中概地ノ50%は開墾整地の上、農機貸与（譲渡は8年～10年後）される。なお、残りノ50%は現状のまま無償貸与され、移住者自身で逐次開墾する。

ロ、移住者は従つて同組合を結成して経営計画の立案、その遂行等組合内部の運営は勿論外交渉等を組織的に行ふと共に、移住者自身で行ふノ50%の開墾耕作についての協同組合を中心とした協同作業、生産物処理を行ふことが望ましい。又、協同組合においては、各移住者に対して小面積の実験畑を設置せしめ、各人の特技を考慮して各種作物の実験栽培を行い、新作物の発見に努めることが望ましい。

ハ、入植予定地周囲においては、既に表土の流亡等の現象が生じているので、家畜の飼育による産糞から肥の造成、緑肥作物の栽培等、計画的な土壌の肥培管理を必要とする。

ニ、本国農家の大部分は50～100%程度の経営規模で耕作には一般に虚勢作（赤）を適正に行い、株単産は充分に行き届いていない。当地区の場合は100%の配分であるから、協同作業に基づく機械力又は畜力の利用により、労力の生産は極力避けることが望ましい。

ホ、かんがい施設の整備が予定されているが、水田作については原則として最小限度に留め、その余力を畑地かんがいに廻すべきであろう。

4. 意見

1. 当地は公称10万タレアで約200戸程度の入植は可能であるとされているが、地区内には不適地、既耕地等があるので、これを除外して1万タレア程度とすべきである。なお、*masare* 川の氾濫による浸水地帯については将来その対策を検討

することが望しい。

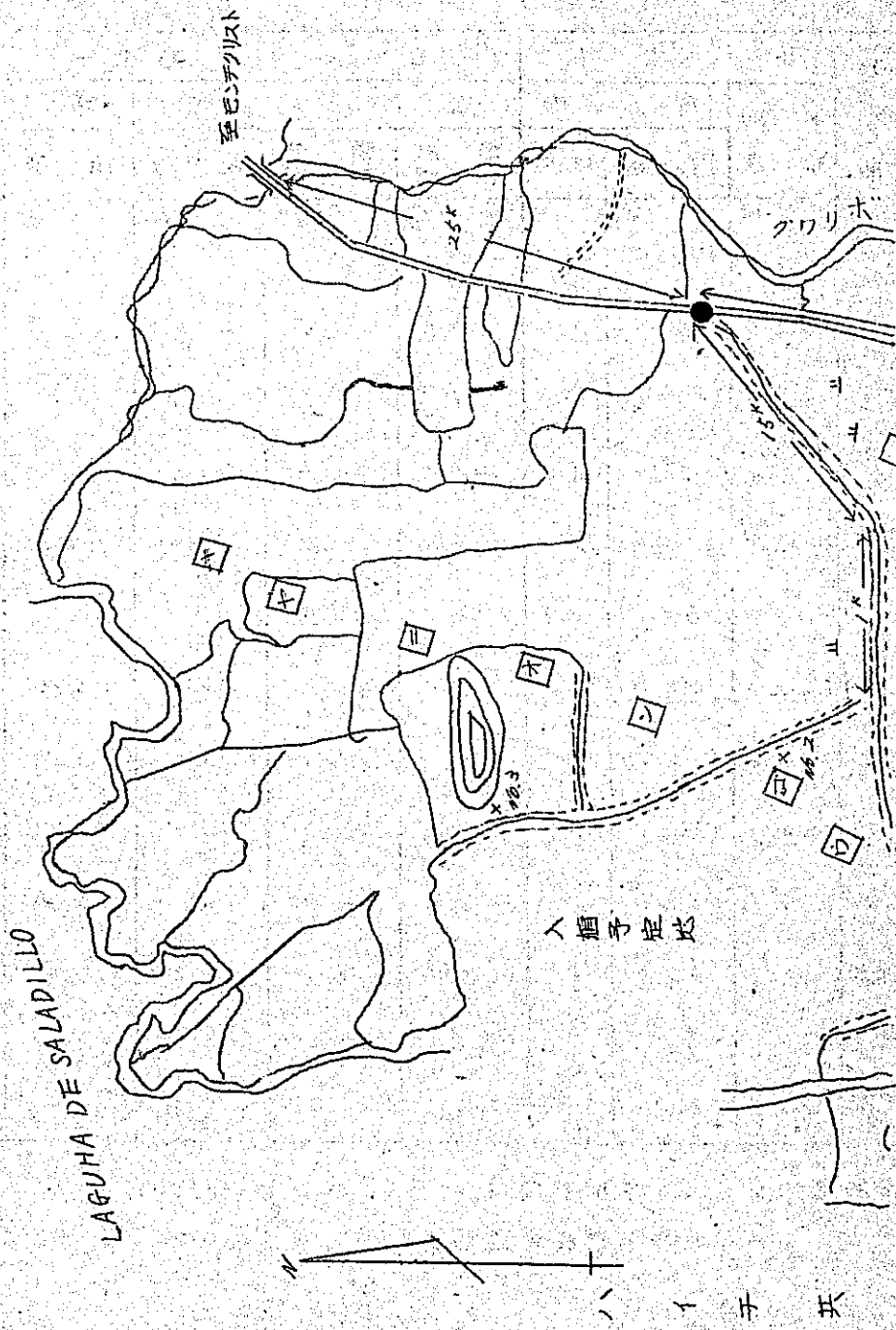
- ロ、入植可能地については、かんがい施設を必要とするので、これが整備を図ること及び飲料水施設をも併せて整備することが必要である。
- ハ、当地帯は国境地帯であり、そのための統制管理は予想されるが、目下ド国と隣国ハイチとの国力の差異が著しいので、過去において繰り返えられた如き諍いは起り得ないと考えられるので、所謂国境地帯であるという不安はないものと想料する。
- ニ、当地帯は *Dejalon* 街の近効地帯で立地条件は良好で、かつ、受入条件(渡航費は個人負担という事以外は概ねスペイン移民の受入条件程度)が比較的良好であり
- ホ、これらの諸点を考慮して、 $30 \sim 40$ 戸の入植は適当である。

(参考)

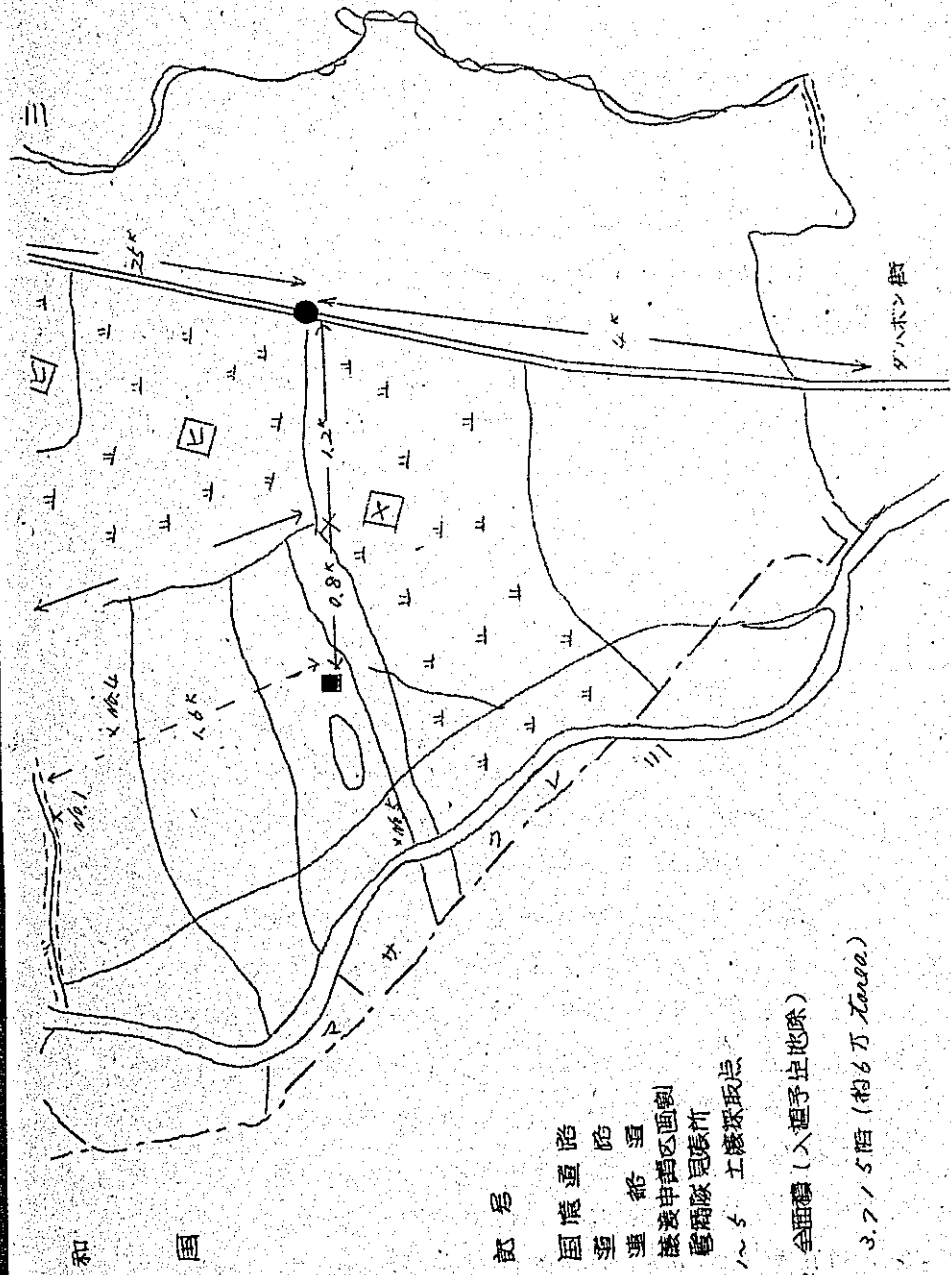
月 別	ダハボ			モンテ・クリステイ				
	平均 年度 度	降 雨		温 度			降 雨	
		雨量	日数	最高 平均	最低 平均	総平均	雨量	日数
	度	概 日	度	度	度	概 日	日	
1	22.0	39.4	3.5	26.1	18.6	22.3	36.8	7
2	23.6	34.9	3.3	27.3	20.5	23.9	27.1	5
3	24.8	33.3	2.4	28.7	21.5	25.1	18.5	5
4	25.2	102.7	6.6	28.6	22.4	25.5	56.4	9
5	26.8	220.6	12.5	30.7	23.5	27.1	94.3	2
6	27.9	177.1	10.1	32.5	23.9	28.2	34.8	10
7	27.8	94.0	7.1	32.1	24.1	28.1	24.9	6
8	28.4	132.2	9.5	33.0	24.4	28.7	28.5	3
9	28.0	142.7	9.7	32.3	24.3	28.3	44.9	4
10	27.7	154.3	8.3	32.3	23.9	28.0	57.9	4
11	25.3	93.8	6.6	29.3	21.8	25.6	73.5	10
12	23.3	73.7	4.3	27.0	19.9	23.5	115.7	7
平均 計	25.9	1298.6	84.9	30.0	22.4	26.2	613.3	72

備考 ダハボの平均温度は1952年、降雨量は1932年～
1953年の積算が隆稱に收まっている124年の平均である。

ダハボン地区位置図



(356)



註ノ 記 号

- 国 境 通 路
- ≡≡≡ 運 船 通 路
- 接 送 申 請 区 画 制
- 警 備 隊 駐 隊 所
- 10.1~5 土 壕 深 取 点

(357)

2. 全 通 路 (入道子定地除)

3.7 / 5 階 (約 6 万 Tons)

ダハボン地区

1957年7月21日 農林技官 中田 弘平

ダハボン空港には海協連の北村君、この地で開業している医師一
のA氏令息始め、移住者代表多教がトラックをもちて出迎えてくれ
た。

空港から7軒、アスファルト道路を走ってコロニヤに入る。この
道はコロニヤ内部の幹線まで舗装が出来ていた。水道の水量が不足
であるとのことで7kmの水路の片側を掘り、5インチ鉄管（水道
用）を埋設作業中。この水が出来ればどう飲料水、洗濯水などには事
ゆかないはず。電灯はまだ来ていないか近く、工事にかかると妊婦
のこと、コロニヤの住居地区は、きれいに出来ていて、家の回りも
大分余裕があり、むしろコンスタンサよりよろしい（広々として）

この入植者は第一次28戸、第二次28戸、計56戸である。

ここで移住定着課長 *montag* 氏に会い、橋田氏を介して、移住
者との間に会議が開かれ、私は傍聴した。

移住者側から、土地を早く拡張してほしいなどの要求があり、課
長は、それは約束通り、拡張してやるから、今耕している土地をど
っときれいにして *full* な生産をあげる課早く努力すべきであるな
ど注文がある。中には第二次の中の一人に、与えられた土地が悪い
とこぼして、相当なよう言をばくものあり、課長をムツとして
あんなのは返してしまえと言ったようだった。（橋田氏） 第三者
から見ると、ド国政府は設備なり、土地内通なり着々制束を履
行しているのに君等の方は文句ばかり言うか一向実観はまだ奉って
いないかというド国政府側の言い分に分かあると思う。

実際、農産物以外入した収入もないこの小国がよくもこれだけの
施設をしてやれるものだと感心する程やってくれていると思う。こ
う言う所で文句を言うのは日本でも同じであるが余り実観をあげて
いない連中で、実観を挙げた連中はむしろ黙々としてどちらかとい
うと無関心のような。

青森組合長から私に送った、第一次、入道者の過去一ヶ年の農耕実績は次の通りである。

第一次 287
個人に割当てられた面積
水田 60町 } 1町当り5町畝
畑 20町 }

外に森林を含む約3000クマがこの家族に配分予定されている。

生産手段は、トラクター1台、トラック1台（これ等は主人から貸付された）馬6頭

農耕実績は

延作付面積	収穫面積	収量	販売価
水稲 80町	55町	52.182 ton	18,200 ペソ (米)
manis 90	78	から付 1500 キンギル	10,400 (キンギルは約 50kg)
tabaco 18		300 キンギル	3,500 ペソ

その他(トマト、甘藷、ユカ Frejols)を若干作る。

註 水稲の収穫率は約65%で、日本流で反当り飯位の収穫だという。

聖皇はキンタル当り10〜13ペソに売れるので有利である。

個人別に見ると相当優秀のあることは当然であろう。相当な金を再生産に投じようとしている人がある。参考のため亀田清吉氏(大家族で、可憐君男3女3その他男ノセノ)の一年間の産産状況を概観すると次の通りとなる。

面積は area、金額はペソ、目方は kg とする。

月別	種類	作付		収 獲			庄活 補給金	生計債	カオネへの投資
		面積	生産量(交出)	種類	数量	金額			
1956 8~12						共 同 20,000	720	750	200
1957 1	トマト	10	120	トマト			108	120	
	その他やさい	2	13						
2	トマト	10	120				72	120	
	その他やさい	2	13						
3	な		0				72	120	
4	米	15	42	トマト	20,000	450	72	120	
	トマト	5	60	やさい		15			
5	米	10	28	トマト	10,000	225	72	120	270
	手	10	15	やさい		15			
6	手	10	15	やさい		20	72	120	430
	やさい	2	13						200
7	トマト	5	60	やさい		15	72	120	150
	やさい	2	13						
8	トマト	7	86	やさい		5	96	120	
	やさい	2	13	米	750 ⁺	675			
9	菜	17	収種 15 42.6	米	1800	174	120	80	
	米		収獲 18						
計			684.1			981.5	1476	1,790	1,250

携行金 1270 } 収入 176
 バランス補給金 1476 } 計 3,727.50
 収かく 981.50 }

庄産債 684.10 }
 支出生計債 1,790. } 計 3,724.10
 投資 1,250. }

要するに第一次の連中は、庄産債欲る上り、はり切ってやっ
 るから大丈夫と思ふ。第二次はこれに比べ、多少自然条件おと
 り、未だ一次程でないか、これといふは一次に引うられて行く
 のと思ふ。

ラス・ラグナス地区

1955年9月 農林技官 辻 啓 誌

1. 当地区は San Rafael の首府 *Elias Pina* と *Hondo Valle* 間の国境道路（国境沿いに南北に走る。）沿いに *Elias Pina* より15～19 km の間に展開する。約10万ヘクタール（詳細不明）の地区で、標高1500～5300呎、傾斜10～15度の各種潤葉樹の密林である。

年降雨量約1730mm（*Elias Pina* の1952～53年の平均）平均気温25度（最高27度、最低14度、絶対最低4度）である。

土壌は、植土または植床土（褐色または赤褐色）で、PH (Kal) 4.4（酸塩性）～5.2。磷酸を欠き、植床土石灰に富む。

2. 当地区は国境地で、かつ国境地帯のため未開発の手ず、放棄せられていたが、現に道路沿いの狭く一部については *Elias Pina*、*Hondo Valle* の住民が出耕作し、果に副業が建設されている。また、最近ト国人が政府に対同地帯の土地譲渡を申請している模様である。

国境道路は整頓（舗装はされていない）されているが、定期的な交通機関はなく、*Elias Pina* へ15～19 km、*San Juan* へ70 km、*Hondo Valle* へ14 km、*El Cercado* へ35 km である。

3. 当地区は、中心部の調査未了のため地区の全ぼうが明らかでないが、飲料水の取水に問題があり、出耕作を余儀なくされると考えられる。また、一般に傾斜地であるため、土壌保全（泥止防止）等の措置がとくに必要である。従って開発に当たっては更に精密な調査、測量を要するので、早急な開発は困難である。

ロス・ホロス地区

当地区は、*Inde pen cua* 県、*La Descubierta* より約22 km の地

戻から山頂を登ること2~3時間(馬)の間に展開する傾斜地(約20度)で、起伏であるか人頭大の石塊が散乱する、標高3000~4000呎の地帯にあり、面積は詳細でない。現在山麓の開地帯が一部は耕作(主として玉蜀黍)をしている程度、移住地として適当でない。

ラ・ゴラ地区

当地区は *Libertador* 県の東北端(同県、*Monte Cristo* 県及び *Santiago Rodríguez* 県と接する地帯)に位置し、*Sabana Lichen* (約3,000フィート)と *Monte Lichen* (約13,000フィート)からなる地区で、草塚で草丈は低く、部分的に樹立が繁茂し、処々にかんぼつ地帯や侵蝕を受けている個所があり、地味、在り地条件ともに良好でなく不適地である。

ロス・アロージョ地区・フロラ・デ・オラ地区及びペデルナルス地区

標高7000呎の *Barahona* 県西部の国境地帯の地区であるが、降雨による道路の決壊により自働車の運行困難との連絡に接し、調査は中止した。コーヒー栽培予定地。

コロラル・グランデ地区及びカリール地区

Libertador 県の当地区は当初調査を予定したか、現地人が既に耕作中との理由で調査を中止した。

パドレ・ラス・カサス地区

1955年9月 農林技官 近藤 章

1. 自然的条件

(a) 位置

(北緯18°40' 西経70°56' 標高約500m)

Azusa 川 Padre Las Casas の西南方約 1.5 km, Padre Las Casas と Cortes とを結ぶ国道沿いの地帯から西南方に展開する地区である。

地区入口より San Juan まで 5.7 km, Ciudadela Trujillo まで 1.57 km である。

(b) 権民地の規模

10万 *terea* と称されているが、地区の入口に当る 12,000 *terea* は私有地 (1954 年 60 人の地主に譲渡) で国府地は私有地の西南方にあり、その規模の詳細は不明である。

なお、当地区は Padre Las Casas 場之署の人が、施設を築工中でその支配面積は 2万 *terea* で私有地 12,000 *terea* にかんがひいる場合は 8,000 *terea* の余裕があるのみである。このかんがひ施設については計画変更を検討中とのことである。

(c) 地形及び地帯

地区の大部分は西南西の緩傾斜でサボテンが生育している。

なお一部は紅陸地、平坦地で地区内には河川はなく、地区にかんがひ水を取水している Rio Las Casas があるにすぎない。

(d) 地質土壌

区 分	地 区 入 口	地 区 中 央 部
PH (kcl)	2.03	2.03
有効燐酸	多少含む	含む
置換性石灰	頗る富む	頗る富む
土 性	壤土 (灰褐色)	壤土 (灰褐色)

(e) 植生、林相

約 20 年前耕作していた事實があり、現在地区の入口は、雑木林で地区の大部分はサボテンが生育している。

(f) 生体動物

特記すべきものない。

但し、蚊は多く (11 月 ~ 1 月はかやばは使用しない) マラリヤ

は絶頂してゐるとは云えない。

(9) 気候 (気温、雨量) (平均及び極地) 乾期及び雨期)

雨量:	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
降雨量	99	148	174	220	150.4	83.9	76.9	90.2	99.7	118.3	44.2	19.2	808.9
降雨日数	2.6	3.0	5.2	8.2	14.5	11.3	9.8	11.7	13.0	10.6	4.6	3.4	96.9
気温:													
最高平均	28.8	28.6	30.4	30.9	29.7	32.1	31.8	31.9	31.0	30.3	29.8	29.9	
最低平均	15.5	15.2	17.0	19.2	19.8	20.4	21.0	19.9	20.0	19.8	18.7	16.6	
平均	22.2	22.4	23.7	25.0	24.7	25.3	25.8	25.9	25.5	25.0	24.2	23.3	
絶対最高	31.0	31.0	32.0	32.0	32.0	32.0	34.0	34.0	34.0	32.0	31.0	32.0	
絶対最低	12.0	12.0	14.0	16.0	16.0	18.0	18.0	18.1	18.0	18.0	16.0	13.0	

2. 社会的条件

(a) 入植地の過去の経緯

当地区は約20年前開墾に着手した。降雨量不足のため放棄され、Padre Las Casas 路の另一端の荒地が墾工 (14 km) されるに至り、一部耕作 (豆類) を開始している。なお、この荒地の墾益面積は 20,000 *terca* であるが、約 12,000 *terca* は 1954 年 11 月政府より譲渡を受けた Padre Las Casas 村長以下 60 人の地主が耕作開始の準備をしている。

(b) 附近の都市と人口集落の状況

Padre Las Casas 15 km (2,300 人)

Azua (州政府所在地) 27 km ()

San Juan 58 km ()

Ciudad de Trujillo 157 km ()

(c) 交通通信関係

バス連絡

Padre Las Casas ~ Azua 1 日 1 回 (往復) / ペソ

" ~ San Juan 週 2 回 (水、土曜日) / ペソ

" ~ Trujillo 週 1 回 (往一月曜日、復一次曜日) / ペソ

(d) 行政 (教育、衛生、警察)

agua に各機関が壜箱されている。

Radio Las Cascaas 郵便局、診療所がある。

3. 産業及び農業事情

(a) 近隣地帯の産業状況

特記すべきものなし。

(b) 主要作物の耕種概要

作物	作付面積	収量	播種期	収穫期	価格
cafe	10,000	4,000 キロ			
arroz	5,000 (移植)	10,000 (糊)	4月	11~12月	1 キロ = 7.00 ペソ
maiz	10,000	25,000	4~5月	10~11月	70 セン = 3.50
maní	5,000	12,000	2~9月	5~12月	1 キロ = 8.00
豆	5,000	12,000	1~2月	8~9月	

4. 入植地建設計画及び入植計画

(a) 入植地の建設工事計画概要

当地区はかんがい施設の有無が入植の可否を決定する。従ってかんがい施設の能力に応じて入植年数が決定する。

また、地区内道路の整備が必要である。

(b) 公共施設、個人施設建設計画

診療所、教育施設の整備、及び、飲料水施設の整備が必要である。特に、飲料水については、Radio Las Cascaas においてかんがいの水 (第1号) を利用しているが、水質不良のため、一部雨水を利用しているものもある。

調査者の意見

同地区は、ト国政府に対し、西部地帯以外の移住地の提出を申入れた際、提示された地区であるが、前述のとおりかんがい施設の工費を考慮しなければならない。従ってかんがい施設の竣工を前提としてのみ入植は考えられるが、一面飲料水の恩恵についてを充分検討する必要がある。また私有地が12,000 タレアであるので、その調整が必要である。

コンスタンサ地区

1955年9月 農林技官 近藤 章

(1) 位置

コンスタンサ地区はドミニカ共和国ラヘガ県西南方コンスタンサ街の西南方地帯に在る。

(1) 北緯 $18^{\circ}55'$ 西経 $70^{\circ}45'$

(10) 標高 1,200 米

(2) 地形

当地区は中部山岳地帯の盆地にして観音ホテルの前面寄りの概ね平坦な地帯で地区の一部は周囲の山腹傾斜地にかかる。なお、当地区はスペイン人移住地(コロニア、アンハリタ)コンスタンサ街及び飛行場に隣接する。

(3) 気候

コンスタンサ街は最高平均 25°C 最低平均 13.5°C 平均 18.0°C ドミニカ国の避暑地で大統領及びトルヒリヨ元帥の別邸があり夏季においては直前等からの避暑者が多い。

月別	気 温			降 雨		
	最高平均	最低平均	総平均	1944-52年		日数
				雨量	雨量	
1	22.5	6.3	14.1	38.4	21.8	2
2	24.7	8.6	16.6	28.6	17.6	4
3	25.9	9.4	17.6	29.9	42.5	6
4	25.9	12.3	19.1	91.5	241.7	10
5	26.3	12.8	19.6	202.5	296.4	18
6	26.2	12.6	19.4	117.0	62.0	7
7	25.5	13.6	19.6	82.5	111.2	13
8	28.0	12.5	20.3	86.5	45.7	5
9	28.8	13.2	21.0	154.3	158.8	14
10	25.9	11.9	18.9	123.5	28.2	3
11	26.0	10.0	18.0	63.3	12.4	3
12	23.9	7.7	15.8	41.1	6.9	4
平均	25.8	10.9	18.3	1054.5	1,035.2	89

(註) 気温は 1952年のものである。

(12) 土 壌

土壌は黒色又は暗褐色の植土で腐植に富む。なお隣接地スペイン人移住地の事例は次の通りである。

	黒 色 土 壌	黒 褐 色 土 壌
PH (KCl)	4.5	5.2
有機燐酸	含まず	含まず
置換性石灰	頗る富む	頗る富む
土 性	植 土	植 土

(13) 災害、病虫

猛獣毒蛇の類は生息しない。なお当地区は盆地であるため、雨季雨期において水害を受けたが排水溝の完成を急いでいる。なお当地区は非常に健康地でマラリヤの発生は殆んどない。

(14) コンスタンサ街の沿革

コンスタンサ街は首都トルヒリヨ西北方ノ20軒の地点にあり首都より自転車にて3〜4時間の行程にある。

コンスタンサ街は、人口約ノ5人(1952年1月末)で病院、教会、トミニカ兒支部等がある。産業施設としては、製材工場の外、見るべきものはないが、各種商店は整っている。電気施設も整い、スペイン人移住地に対しては配電され、電灯及び暖熱を利用している。又目下飛行場(双発)の完成を急ぎつつあり、今後その利用は可能となる。

(註) 隣接都市状況

	人口(1952年1月)	距 離
コンスタンサ	10,571人	—
ハヨバコ	27,240	48K
ラ・バガ	123,130	77
モンテニョール ノウェル	41,244	118
サンティアゴ	159,404	121

シウタド
トルヒリヨ

250,000

18%

(トルヒリヨの人口は1955年7月の推定)

(7) スペイン人移住地

スペイン人移住地は1955年6月設定されトルヒリヨ元師の娘の名を冠しコロ＝ア、ラ、アンヘリタと命名されている。なおスペイン人は約200名(1955年末)で單身者が多く一人当の配分予定面積は50タリアであるが、現在配分されている面積は20タリアである。

なお、当地区は盆地である関係上排水が悪く、目下(9月)には地区内の低地部は冠水し農耕不能状態にあり、排水路の完備を急いでいる。

コンスタンサ地区

1957年9月16日 中田弘平

トルヒーリヨからコンスタンサ行きは1度移住者の弘田さんのトラックが所用でトルヒーリヨに出たのでこれに便乗する。この間、150kmはすでにアスファルトで舗装された立派な道路があるのであるがこれに並行して新道のより立派なコンクリート道が建設されつつあり、一部完成していて、車(フォードの中型トラック)は100km位の快スピードで走る。途中中央山脈にどしどしかかるころ猛烈なスコールに会い車を一時立往生するかと見えたのは印象的だった。途中El Rioから先は車は忽然山間に入り峭壁にまたがる急坂を一気に1000mばかりを登りそれから又盆地に入ってやや下る。日影のいろは坂を思わせる様な坂道で風景絶佳である。道は舗装してあるが急カーブが多いので自切車の転落事故も多いといふ。乗車々々

コンスタンサに達したのは出発がおそかったので夜に入った。弘田さん宅で夕食を御馳走になり雑談しばしの後川上組合長宅に泊

めてもらう。

翌朝移住者の荷倉に認朋をききながら、日本人移住地と新しく今入植しつつあるハンガリー人の入植地など視察した。(途中から海堀重面岡氏をかわった)

先づ驚くことは気候のいいことである。この地の標高は1160mなので200mに一度の割合で涼しくなりトルヒーリヨより常に6度低いという。朝は浅岡鶴原の秋といった感じである。異しい山々を背景にしてこのさしゆたし67kmの盆地をコンスタンサの町。スペインの植民地(これが一番大きい)日本人、ハンガリー人の植民地住宅が取りまいていて、所々高級ホテル、病院、修道院、ト元師の別荘などスパラシイ施設がある。移住住宅の周りは四季の花が咲き乱れ、これは全くの健康地である。

こんな素晴らしいところに来て居る。水道つきの家を与えられ、耕地は墾地して与えられてる移住地には何處は深山あること驚くばかりです。

先づ人の問題。これは黙々としてすでに相当の実績をあげている人々と、策に策をうらして何とかして早く金儲けしたい反面畑の方は一向にやらず色々うわさや不和の種をまきちらしている人ど。その中間にあって、先づは暮営に建設を目標としている人とザント三通りあって組合とは名ばかりで、実はなく、若い組合長(と称する)川上さん(海堀重本部から令息の岡伊家族として入植した人)は沼いた形で淋しそうだった。第一の種類の人には外に何って言葉も多く教養も低いのに、不十分なスペイン語で得た不確実な情報やうわさを丸で自分達の先達であるかの如く内外にまきちらして国政府筋にも日本会館にも不快を与えている。(その統領が弘田(高知)だ)この重中はコンスタンサは未の見込みがないからここを去って Jarabacoa に転入植させてくれと運動をしている。何故見込みがないか立入って聞いてみると理論的には、何れも分らん。只ハラバコアに移民が入ればコンスタンサより地理的に有利なので、市場をらばぬれるとの理由であった。

第一の種類のてん型なのは鹿野邸出身の若い馬農家岡氏など、彼は兄弟三人で与えられた三町歩を三分し、自分は荷造すじの一町歩を、きれいに整地し、周囲に鉄籠をばどこし水通鉄管を地内に置いてスプリングローの施設をなし、甘藷馬鈴薯、トマト、カーネーション、レタス、などをきれいに作っている。この畑を年一回耕すという。常雇を二人雇い自分はハンドトラクターを駆使し、夫婦で、人夫費日ノ人ノトルメを払ってそ相替な全作のこるこしを私に結った。

中間派は 群馬県庁にいた山本三人達（元気でやっていることを本首畜産課の山本課長に伝えてほしい由）で流石にエローションの問題、地力維持の問題、土地追加配分の問題などを考えながら畜産に力を入れている。北海道出身の大庭氏などその組である。中には川上さんの兄さんなど、内地では豚内や子豚が病身で困っていたが、ここにきてからスッカリ健康になり、これだけで大した儲けなのです。まあ、ここで怒々と一生やりますと遠慮している人もある。

私の意見

この地は気候的に国内で極めて特長があるので、この特長を捉えて作物を作れば必ず成功すると思う。馬鈴薯、かんらん、レタスなど大変よろしい。トマトもかなり作っているがこれは下と競争した場合疑問である。又白菜は今は食習慣がないから売れないうちが将来特産になりはせぬかと思う（*Santiago* の支那人の料理店から白菜を盗んでくれるくらいでも引取ると言っている）

馬鈴薯は更地種は退化していて働ける安いかカナダ種は一般（50 km）8ペソ以上をすることがある。現に過去一年で馬鈴薯を主体に作り未だ誰にも言っていないが、1500ペソ金をのこした（*not surpriss*）と私にひそかに告げた人もある。

永年作物としてふどうかよくはないかと思うが農務局長に意見を聞いたら、雨が多くて湿じゆん（この国では）だから駄目だと云う。

研究の余地はあろうと思う。現在試作している人がいる

2. 土地の問題、これは早稲土地が速くなる人が起ると思ふ。
時に山本さんの様に畜産を取入れようという人にはせうなる。
然し今はト国政府の云うように、与えられたそのタレプを充分
こなして行なひてはなれぬと言われりや一言もない、いたづらに
土地を所有(占有)して草をはやしておくことはこの国では認め
ないのであり、又彼等が投下した建設資金のことを考えると当然
と思ふ。そうこの周りには拡張すべき土地が有りと言ふ人がある
か(移民側は)時の流れと工夫の如何によつて、能力ある人には
拡張の余地はいくらあると思ふ。かつて嶺山の山本博士がここ
に見えて、その月後にここを沙漠にするつもりでビム人を取るか
る一つの考へ方であると言われしやうだが、私はこの地を捨てる
ことは余りにおしい。

3. 組合の芽は出ている。私が立つ前の際、北海道の大庭氏を中心
とする四人の同志が私の指を誘ひ、組合設立の相談をしていった。
私は協力を酌した。これが出来て生長すればこことはホンマモ
に成ると思ふ。例の「かく千金組は早稲かけをひせぬだらう」
ともあれ、コンスタンサは来るその月4日入植し國庫を建てる
ことになった。弘田氏が主催して墾助会をやるという。
私は彼等の成功を祈りつつこの地を去った。

ハラバコア(Jarabacoa)地区

1957年9月18日 中田 弘平

朝5:30に *Constanza* をリニヤを控つて出発(海抜西風氏河
野)朝食前に *Jarabacoa* の町についた。静かな町だ。トミニカ宛本
部の番の芝生の広場で青年が朝礼と朝の訓練を受けている。私達は
乗はたのホテルで面でも浴びて、ゆっくり朝食を喰べ *Colonia* 付近
とかと言ふと、ここから2kmばかりの町はづれという採しひので
二人でブラブラ歩いた。8時頃目的地につく。

ここは中央山脈を一たん下り、尚低いこの国の穀倉地帯シバオ平

乗に至る間の中だるみのようになった平地で冷風面流する *Rio Yagué del norte* の最上流部にあたる、相当高いところなので、気温も *C. Trujillo* と *Constanza* の中間位だという。

Colonia の建設は殆んど完成に近く、60戸のバンガロー（木造板張ペンキぬり上げ）風の家が建ち目下、水道工事と配電工事中、土地は住宅地から見下ろせる稜を前面が3000クアレアノみの町廓型され、ブルドーザーが地均し作業の残りを盛にやっている。

建設管理官に刺さ通じ来意をつけると、シープで、どこぞを案内するという。するうち次の一寸した事件が起った、それは、コンスタンサの例の弘田氏のトラックが、10人ばかりの連中をつんで我々の前に着われたのである。そして自分達も、ここを調査に来た人ですという。一体誰に頼まれて調査しているのかと言いたくなる様な態度である。そして直に棚垂された土地に何ってこのトラックは先廻りして出て行った。

20分程して私達がシープに乗ろうとして行くと、このトラックが隔って来て、今からですかという。そうだといいると、先生はこの *Colonia* だけ調査されるつもりですかという。妙なことを言うものと思い、それはどういう意味かと問うと、ここはスペイン人のコロニヤです。この向う（指さして）にハンガリーのコロニヤもあり、まだその向うに日本人のコロニヤがあるのです。私達はこれからその方へ行きます。さようならといった調子である。私はこの地区を見てから、今しかた日本人移民の言ったことについて管理人にシツコク聞いたが、その事實は全然ないと言う。そんなうわさか一寸立ちかけたこともあり、遠い将来は分らんが、今のところ全然計画はないと言う。我等が虚言をきいて言うことはその程度なので、それだからと言って親切に教えてくれるでもなく、又行って見たからぞだつたという報告（？）もない。私はヒョットすると大きなおとし穴かじりかけられているなと思った。中田はわざわざ *Garabacoa* の調査に来たが、アサッテの方だけ見て帰つたと言ひならすかも知れないと、同じ日本人同志で一寸不愉快を事件だつた。

さて、この土は黒味の勝った森林褐色腐土であるビューマスを
 う人と含みよしい。深さは40cm~50cm位で下層は赤球を掃
 いた砂まじり砂、腐土となっており、これは余りよくない。住宅の
 なる台地の左の部分はこの下層土が露れにあり非(い)。
 附近は喬木の密林よりなり、雨の多いことを示している。喬木の日
 陰にコーヒーが栽培され黒人の女が赤い突を挿んでついで(い)る(私
 はコーヒーの異物を始めて見た)

土壌の検定結果はPH. 5.2 有効磷酸含む、置換性石灰腐土、腐植
 に富む、である。

住宅は60ヤ軒をこえて建ったが、管理人にきいて移入植計画
 について上から正式の指示がないと何卒教えてくれる(この態
 度は好感がある)あとで移住定着課長にタハボンで会った時にき
 いたところによると、ここは全くの混合植民地にする予定で今のと
 ころトミニカ人と日本人を考えている由、征って日本で開いた、ス
 ペインとかハンガリーとかが出たあとにに入れるというのとは全然ち
 がら(これは確実、まだ誰か入っていないから)察するに、スペイ
 ン、ハンガリーの方が計画通り預けが揃わぬので、日本にお金が廻っ
 て来たのではなからうか。それにしてはコンスタンサの垂中か垂
 流する土地だけに入植せしめるに足らぬ必要はない。預けくは国
 際植民地にふさわしりなるべく教養もある若夫婦などで采り、同僚
 者などは連れて来ぬ様御願ひする。

大塚館で調べてもらった主要農産物の単位面積当生産高とその販
 売価格統計

作物名	area 当収量 (6畝)	白石販売価格 (現在)
arroz	2 ヲンタロ	26.00
Batatas	15 "	15.00
celollas	7 "	48.00
Cocos	500 個	15.00
Guineos	100 房	100.00
maiz	2.5 ヲンタロ	10.00

mani	2 キンタル	16.00
varanjas	3,000 個	30.00
Tabaco	2.5 キンタル	30.00
Yuca	1,700 kg	24.00
Frejoles	170 lbs	25.50

- 註
- キンタルは約一握、詳しくは453 kg.
 - Cebollas はわけぎの類な野菜。玉ねぎの小さいよるな
もの。
 - Guineo は *fruits banana*
 - 岡生産高は全国平均である。

I 自然的条件

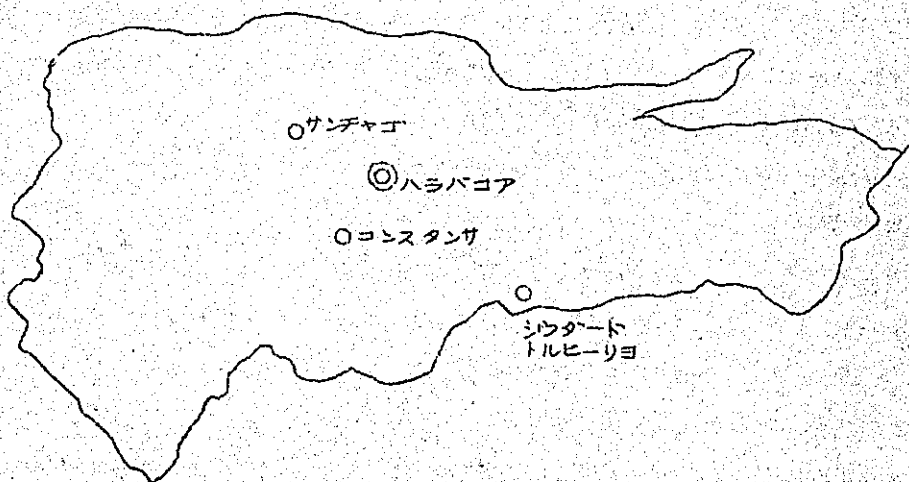
(a) 位置

N 19° 10'

W 70° 40'

標高約 600 m.

シバカ (La Vega) 郡



ハラボコアの地区は国土のほぼ中心に位置する。すなわちトルヒーリヨ市の北北西 160 km (道路距離) シバカ平原の中心都市サ

ンチの南々東 60 km 更に 入哲地コンスタンサの北々東 28 km のところに当る。

(b) 地区の規模

現在開墾されている耕作地の前積は約 3000 クレア (1 クレアは日本の約 6 畝に相当する) 外に住宅用地数百クレア (住宅 60 棟は完成) である。この中の一部を日本人入哲地に予定されている。

住宅地と耕作地とは分離されているので配分される土地が選ばれる場合は 2~3 km の出耕作となることは望めない。配分地の割当は未定で場合によっては住宅地区のすぐ前の耕地を割当られることとあり得る。

なお地区は将来若干拡張の余地はある模様である。

(c) 地形及び地質

中央山脈中に源を発した Rio Yaque ^{del Norte} が始め東流し次に方向を北に転じようとして大きくわん曲している。そして河は山岳部からぬけ出してこれからシバオ平原に入るうとして少し左めらっているようなどころいけば中流部にかかるとこの地区はある。

地形は北の方を除き丘陵に取り囲まれ、中央山脈の山岳部とシバオ平原との中間にかかった台地状の地帯で、農耕地附近はこのヤケ河の谷に何って極めてなだらかな傾斜をそつ平地である。北ヤケ河を左はさみ、その両岸に出来た平地帯を切開いて作ったるので、地区内に衝流が流れている。湖沼などはない。

(d) 地質、土壌

表土は黒味の勝った腐植に富む森林褐色腐土で、深さは 40 ~ 50 cm である。検定結果は DM, 5.2 有効磷酸を含ま、置換性石灰に富む。地味肥沃である。下層土は赤味かかった砂礫土で砂を含み、尚揚子により表土中に石灰炭の破片等よりなる粗大なる礫を含むところとあり、これらはレーキトローガーで掘り上げ農耕に支障をいよりにするとのことである。

地下水位は不明であるか余り深しとは思われない（特に河に近しいところは）飲料水は上水道が出来ているから支障ない。

(e) 植生、草塚の状況林相

地区附近の林相は高20m以上の喬木の中等程度の密林であつて、パルム椰子樹が相当多い。大木は至7m以上のものをあつたが多くは30~40cm位である。草塚はない。

入植地区内は、これら大木が全部なき倒れ倒れに地づけられ密やせされた。

(林相から見て、かなりの雨が降ることを想像されるか附近の人の話によるとこの附近は農耕に必要なだけの雨が降るといふ)

(f) 棲息動物

別に何もない。小鳥やリスのような小動物はいるといふことであるか余り見掛けない。むしろ猛獣毒蛇などはしない。

(g) 気象

この附近の観測結果を得ることは出来なかつたが、気温はトルヒーリとコンスタンサの谷底中間位といふ。トルヒーリとコンスタンサでは年中約6°Cの差があるからここはトルヒーリよりは比バルと約3°C低く、コンスタンサに比べると約3°C高いといふところだろう。要するに気候のいいので名の通つたところである。

降水量は土地の人の話によると農耕に必要なだけの雨が降るといふ。

農務省の話によると、この地区に近将来かんがい施設をすべて目下予算申請中とのことであるか緊急を要しないと想像した。

(h) 災害事情

特にそれらしきものは考えられない（土地の人の話によつて、別にないといふ）

II 社会的条件

(a) 入植地の過去の経緯

私有地であった未開墾地を国家が一括買上げをせよらしく、
現在は国地である。

(b) 附近の都市と人口集積

ハラバコアの町はこの附近の中に都市で人口約5000、隣か
な田舎町である。

道は二方に通じ、北すれば29 kmでLA VEGAに南すれば、
28 kmでコンスタンサへの分岐点El Rioの町に至る。

(c) 交通通信

自動車による交通はどこへでも自由である。ハラバコアの町
までは約1/2分、La Vegaまで通信はハラバコアに郵便局があ
る。

(d) 行政

関係台帳完備している。

(e) 特に入植地近傍の衛生状況

特記すべき事項なし。

III 産業及び農業等

(a) この地帯から一帯北の方に下れば、穀倉地シバオ平原に入り
又南の方コンスタンサは高冷地である。その中間の地として、
いわば、冷涼と、烈日の両様の農業に適する地として、注目さ
れるところであるが、余りまだ開墾されていない。

(b) 適作物としては水稲を除くこの国の普通作物で特に馬鈴薯、落
花生、いんげん、かんらん等の野菜類が有望である。永年作物
としては、バナナ、コーヒーを適作である。

(c) 輪作型式は当分の間考慮しない。

(d) 農業経営型態は、

畑作（普通作及野菜）若干の養鶏、畜、将来はコーヒー、バナ
ナ等の永年作物を栽培する。

(e) 標準生計費、前提出報告書参照

(f) 輸送市場及び市場

広域的大市場としてはサンチャゴであり、ここへは野菜の特

産物などが何れ、*mani* の如き国内一般向け作物はハラバコア
で直接販売出来る。一般に輸送が便利であるので、価格に高低
はあつても出来をそのが売れないということはない。

市価については前提出報告書参照

あ 1. 初年度 例へば次の操存作付が考えられる。

作物	面積	収量	販売価格	合計円算 換算
Patatas	10 ไร่	70 キロ	200.00	
mani	5	10.	80.00	
Frijoles	5	1000 lbs	1.27.50	
maiz	5	12.5 キロ	50.0	
野菜	10		300.0	
	35		757.5	282,000 円

生活補助金

390,000

収入計 672,000

養 経 費

230,000

差 引 82,000
(黒字)

以下ネイハ地区に準ずる

Ⅳ. 入植地建設計画 すべてト国政府の手でなされ、ほぼ完成して
いる。

Ⅴ. 受入国、在外機関等の意見

受入国はこの地区に日本人ノミの受入を決定正式通知した。
在外機関としてそのこの地区への入植に異論はない。その国際植民
であるから特に他民族と不要のトラブルの避るぬ標を、優秀な家
族をのぞいていう。

Ⅵ. 調査者の意見

入植に着手前に日本でせいのハンカリーとカスペインの出たあ
との穴うめにするとの説は誤りであつて、全く新しい所に入植
するのである。早い方がいいと思う。

面積は是当り一戸当り町と作るか。これは他の地区と同様能力
に応じて層やせれる(積反の場合の余地はあつたと思う)

ドウベルジェー地区

1957年9月15日 農林技官 中田弘平

海協連支部横田さんに案内されて、ドウベルジェー *dluwerge* (ドウベルへと言はずにドウベルジェーと特別の読み方をする) *Neiba* ネイバ (又は *Neyba* と書く) 両地区を見て来たので、その概念を報告する。(調査項目別の詳細は別紙)

これら両地区は国の南西部にあり、常夏の国ドミニカの中でも雨量の少ない(年雨量 $35'' \sim 50''$, 1000 mm 内外) 一番暑い(トルヒリヨ市よりも確かに $2^\circ \sim 3^\circ$ 気温が高い) 地方である。国の南西部一帯の自然は、この乾燥と炎暑のため半沙漠状を呈し、立毛は $3 \sim 4 \text{ m}$ もある大きなサボテンを交えた高さ $3 \sim 4 \text{ m}$ 程度、高さ $10 \sim 20 \text{ cm}$ (直径) 程の如何にも乾燥に強そうな葉面積の少ない、苞料らしき種木が支配的に多くて、下草も殆んどなく、従つて太陽の直射光線は地表に達し、かわいた土はいやが上に干かしている。

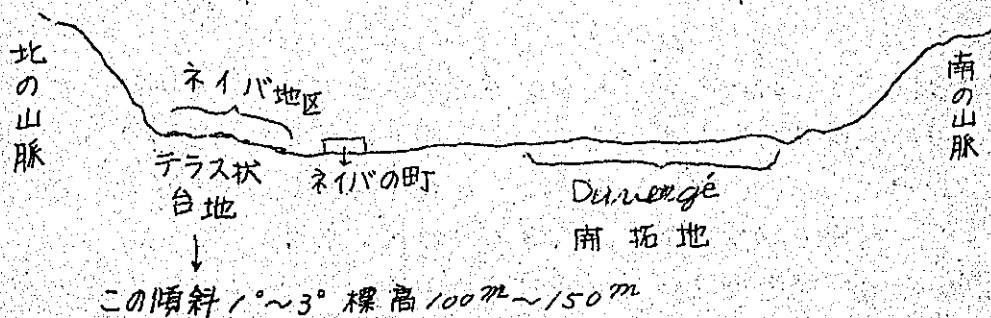
この地方を開発し、そこに農業生産をむたらすものは一にも二にも水であつて、灌溉が農業生産のすべてを支配すると言える。トルヒリヨ市を海岸線沿いに西に走つて、これらの地区に到る向、*Bani*, *Azua* 等の地方小都市(都市といつても日本の村位)を通過するが、こゝでは夫々大会社か、甘蔗や、サイザル麻の大農場を持ち、一園場数千町に及ぶかと思われるものもあるが、何れも相当完備した、灌溉施設を持ち、水路は喫所要所を除いては素掘りであるが、管理は可然り行き届いている様見受られた。西に行くに従つて *Guineo* (バツナ) ココ椰子の *plantation* も多い。

ド国政府はいわゆるこの半沙漠性の土地を開発し、農業生産を興し、国力の増進に寄与せしむべく一大国土開発計画を実施しているのであつて、そこに求められているのか、ハンガリ移民であり、スペイン移民であり、はたまた日本人移民である。

dluwerge 地区はこの国土開発計画の中心であつて、その北と南に并風の様に東西に走る両山脈の間、巾(南北)約 20 km 狭敷

Kmの かつては海の底であつたと思われる全くの平坦地であつてこれに *Cristobal* 湖から大 canal によつて水を引き、土地をうるほし、沙漠を化して稔の沃野たらしめようとするのである。既に費した国費は 1955 年以來 240 万ドル (この数字は後程農務省で確かめ多少訂正するかも知れない。) に達し、機械開墾公園の機械を駆使して開墾した土地面積は 2000 町以上に達するという。そしてこの大工事は、細部を除きほぼ完成に近づいている。いわばこれは米国の T、V、A の小型であり、日本の愛知用水にひつぱする。

ネイバの地区はこれとは多少趣きを異にしていて、北側の山脈 (姿が奈良の、いこま山系そっくりである) の脚部にテラス状に出来た中約 2 Km の台地 (極めてゆるやかに南東方に傾斜しもと海底であつたとおぼしきドウベルジェー地区を含む平地に連なる) を開墾し、背後の山脈から流れ出る清水を導き畑地灌漑をする小規模開墾である。きれいに開墾され残った雑物をレーキドーザーでかき集めて寄せ焼の最中である。この台地に立つて見渡すと、はるかかなたの山麓にドウベルジェー地区の集団家屋が赤、青、黄と色とりどりに並べられていてそれに連なるド地区の開墾地が、ぼう大な面積に展開している。足もとのネイバの町から、ド地区まで、真白い大道路が一直線に貫ぬいていてその向き、やしの大木が点綴している眺は見事である。右方には *Lago Enrique* (標高 -40^m のかん水湖) がその東端をのぞかせている。



さて、ドウベルジエー地区は前述の如く、1955年に工を起し、工事はほぼ完成し、移民家屋も二百数十戸出来て、次々にスペイン、ハンガリーの移民を入れたのであるが、これが居つかない。彼等は暑くてやりきれんと文句ばかり言って、涼しい所を求めて転植するのである。現に我々がこゝへ行った時も、ハンガリー移民約40家族が涼しい所へ転入植を求めて、政府に交渉中であったが、このため本省の移民定着課(仮称)長が、能く現地に出向き、その年は若いがしつかりした(毛並むいゝ)そうである)課長が彼等の何拾という口から出る苦情を極めて平静にテキパキと処理しているところにぶつかった。移民は家の中をのぞいて見てもろくすっぽ家財らしきものもなく、言わば裸一貫の移民らしく、身軽るといえば身軽る心がまえが出来ていないと言えはせう言える鼠に私には見受られた。但し、けん悪な空気は全然ない。

果してそれ程居難いところであろうかと考える。

土地は深くて地味はよるしい(PH 7.5以上、置かん性石灰質の富む、有効磷酸に富む)なる程、強アルカリ性土壤で一、二年は作物もよくは育たないだろうが、水さえかければ、容易に除塩出来る性質のもので、その後は極めて鹽じょうな土地になること疑いない。(生産が充分でない間は政府から生活保給金がもらえるし、かの近くの塩山からだらだらと塩水が流入しはせぬかという心配は現地を見て全く杞憂過ぎないことが分った)

問題は暑さである。スペインやハンガリーが逃げ出すのも、暑さにやりきれん為という。現にこゝ々ヶ月の間一度も雨が降らないという。朝9時頃から、いや8時にはもう太陽がギラギラと輝き、午後1〜2時頃まで続く。それから雨雲が空を覆い、後分涼しくなる。ここで一雨降つてくれればいゝんだが(トルヒーリョならスクールとなる)ところだが)一向降つてくれない。夕方から朝にかけては、それでも可成り涼しくて安眠出来ないようなことはない。

政府はこの事業をどうしても成功させたいと思つている。そこで日本株が上るのである。日本人ならうまくやつてくれはしないかと、

彼等は思っている。

もともとこの地区へは、日本移民に御座敷がかりなかつたのであるが、最近になつて急に言い出したのは、上の理由によるのである。そこで日本人がこれ位の暑さをいとわずやる気さえあれば、この地区に30、40などと言わず、全部を日本人とドミニカ人に委ねられる気運が動いている。そうなれば200、300の入植は勿論可能である。(日本人関係者はそのよきチャンスであるとする向きが多く、私もそう思う。この小型のT.V.を日本人の手で開発するとなれば、ド国政府も大いにその労を多とするだろう。従つて移民経済上、これを見捨てることは絶対あり得ないと思う)。

土地の問題であるが、取めえずは3丁歩の水田耕作地が、適当であると思う。ド国政府はこの種開拓地の入植者に与える土地は法規上の所有権ではなく、言はゞ使用権である(10年占有すれば所有権となる)従つて土地所有権のみをねらつて、不在地主的存在や、生産しないで土地を遊ばせておくことを極度にきらい、生産能力あるものには、次の3町歩も又その次の3町歩も与えると言っている。次の3町歩をもとの土地の地続きにもらえぬだろうかという心配もあるが、これは後で述べる通り、何とも言えない。離れるかも知れないし、或は運よく地続きになるかも知れない。

この国の植民地では移民家屋の位置と、耕地とを切りはなして、家屋は集落をなして1個所に集め、そこから遠い耕作をする様に出まてゐる。それは主として建設に要する費用(上水道、配電等)の点に理由があるらしい。私はこの点について、Duvergéの植民地事務所から広大な開拓地を眺めながら、定着課長に「私は将来この広い土地に、ヤシやバナナの樹にかこまれた広に庭をもつ農家が、自分の耕地の中心に点々と散在する、疎開された農村を想像しており、そうありたいものだと思うが、貴兄は如何」と質問したら、彼しばらく考えていたが「実は私もそれを何回か考えたが結局それは、1. この地区は水を通せば一面の低湿地になるから衛生上よくない(蚊など発生した場合) 2. 将来農作物の管理は雁行機などを使

って大々的にやるつもりだからそれにも中に寢家があると都合が悪い、等の理由から今の形式をとつたりと答えた。私は寢村は結局は部落形式よりも自分の敷地に家を持つことを理想と考えるけれどもこの地区の特殊事情には暗いので、急に決することは危険であるので、議論はしなかつた。

Neiba の方は、開墾と用水路（底巾 70cm 上巾 100cm 深さ 50cm のねり 積み水路）が地区を横断して（等高線に直角の方向に）出来ており、きれいな水が、サラサラと流れている。水は将来この水路によるものでは足りなくなるので、目下この地区の土部を通る外の水源からの水路を計画中で、中心坑が打たれていた。家は未だ出来ていないが、上水道はいつでも水がとれる所まで来ており、30戸や40戸の家は1ヶ月で建てるとのこと。木造バンガロー式だから、建築も世話ない。こゝは水田ではなくて、畑作である。従つて野菜や豆類、落花生、バナナ等が有望と思う。土は1m以上も表土があり、(PH 7.2 置かん性石灰質の富む、有効磷酸含む)水さえやれば何でもよく出来ること疑いなし。

地力維持については、この両地区のみならず、一般的にひとで農務省の意見もたゞき、結論を出すつもりであるが、この両地区を見た感じでは、当分の間は肥料の事など考えるのも需震々々しい様に感じた。これは将来の問題としてゆつくり考えるかよからうと思う。

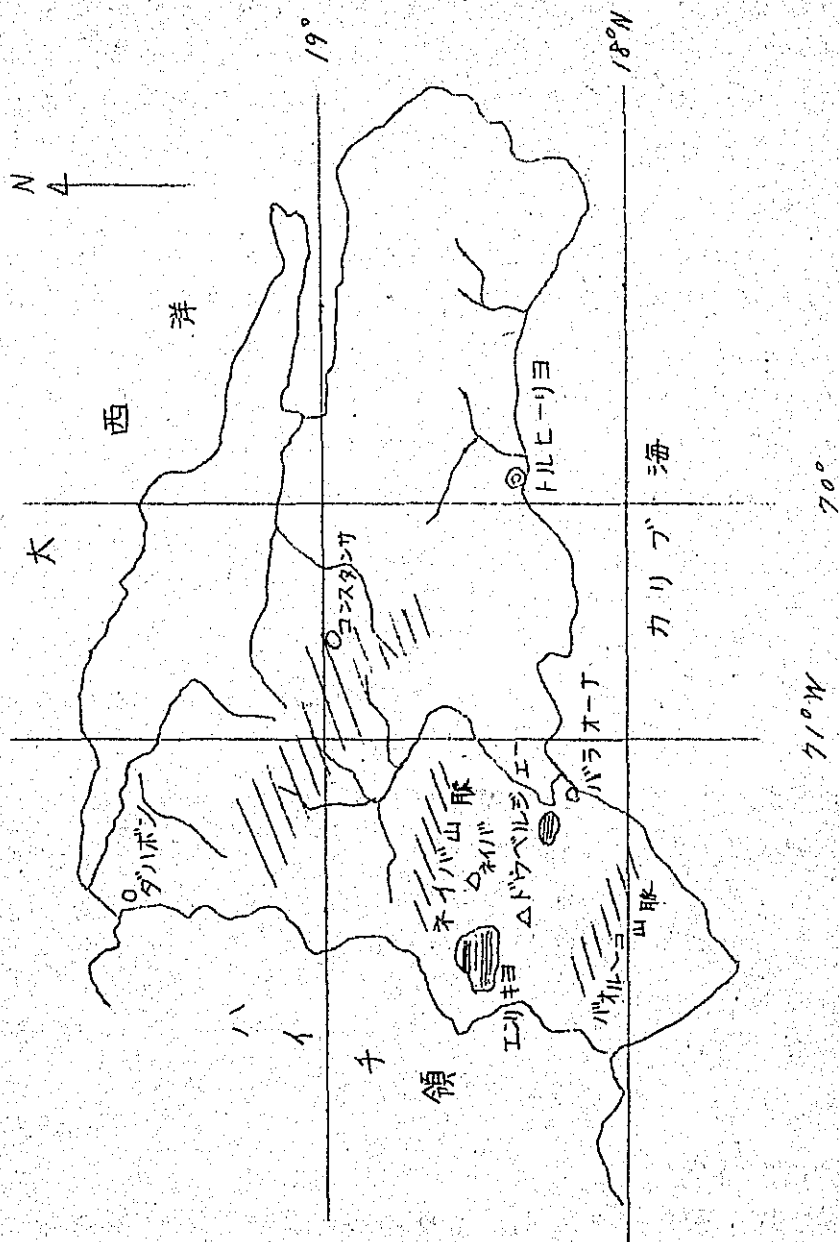
I 自然的条件

(a) 位置

N 18°25' W 71°30' 標高 50m
インデペンシア県

(b) 地区の規模

ネイバ山脈とバオルーコ山脈の間にはさまれた南北約 20km 東西 20 数 km に亘る、半沙漠状の平地、これがドウベルグエー南発計画の対象である。この平地に東方クリストバール湖



に水源をもつ、灌溉用のカナルを設けて水を引き、カナルの
 レリは、標高 40 m のかん湖エリキヨに落す。現在用意
 されたカナルの規模は 25 万タレア (15,000 町歩) をかんがい
 するに足る大きさでその中、南墾整地された土地面積は約

24,000 タレア であつてこの地域は全部水田となし得る。なお *Emergè* 地区開発のため 1955 年以来国家の投じた金は 2,400,000 ドルを越すという。(移移定着課長談)

(c) 地形及び地貌

一見全くの平坦地であるが、些細に見ると局部的に 1 米位の高低はある。そして全体は極くわずかに西に傾斜している。局部的な高低は、ブルトーザーにより、整地可能である。丘陵、沼沢等は地区内にない。この平地はもと海低であつたものが土地の隆起によつて、地上にあらわれたものである。

(d) 地質、土壤

往時海底に沈積した微細なシルトよりなり表土深く (1m 以上) 下戸土は計りしれない。協会式土壤検定器 56 型で表土を検定したところによると、pH 7.5 を越す (強アルカリ性) 有効磷酸に富み、置換石灰に類する富む。

地下水位は附近に井戸がないため不明 (住宅用には上水道が完備している)

地下資源はないものと思われる。

(e) 植生、草原の状況、林相

日中の炎暑と降水少なきため半沙漠状をなしている地帯で、自然の植生は大きな (3m ~ 4m) サボテンを交えた樅木の疎林よりなり、草生も極めて乏しい。ただし、水を通じた附近は、にわかに青々としてあらゆる草木がしげる。

(f) 棲息動物

何もない。強いていえば野ねずみの類が多少棲息しているのではなからうか、水稻が出来れば雀に似た小鳥が附近に集ることは予想される。

猛獣毒蛇の類は全然いない。

(g) 気象

首都トルヒーリヨに於ける 1946 年 ~ 1952 年の観測結果は

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
平均最高気温	28.7	29.0	29.4	29.4	30.1	30.3	30.5	31.5	30.0	30.6	30.8	29.3	
同 最低気温	17.5	18.5	19.4	20.6	22.0	22.3	21.8	21.9	21.7	21.5	19.8	18.0	
日 平均気温	23.1	23.7	24.4	25.0	26.0	26.3	26.2	26.7	25.9	26.0	25.3	23.7	
降雨日数	5	3	8	14	17	15	17	9	14	13	5	5	
降水量	mm	28.6	87.7	28.1	78.8	121.2	169.1	120.1	157.6	240.0	342.6	70.0	38.4
											計1484.2 ^{mm}	(1954年)	

この地に於ても12月と1,2,3月は涼しく他は暑い。又その時期には雨も少く、言はば乾期に相当する。序ながらコンスタンスの気温はトルヒーリヨのそれに比し常に6°位低いという。標高200mに対し1°Cの割合で下るのである)

ドラベルジエ地区附近ではトルヒーリヨより2~3°高いという。

又、この地区附近の降雨量は *colonia* 管理官の談によると年間35"~50" (1000mm内外) (875mm~1250mm) で年により可成りの変動があるらしい。

1954年 *Jimani* のデータは次の通り。

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
平均最高気温	30.6	30.3	31.1	31.5	31.2	31.4	31.7	32.8	32.7	30.3	31.7	30.5	
同 最低気温	20.1	19.5	20.8	21.4	21.1	21.3	21.6	22.0	21.7	19.7	21.2	20.1	
日 平均気温	25.3	24.9	25.9	26.3	26.2	26.3	26.6	27.4	27.0	25.0	26.5	25.3	
降水量	mm	31.8	108.3	10.0	55.5	91.7	71.4	65.8	102.2	77.0	370.8	—	40.0
											計1031.5 ^{mm}		

(九) 災害事情

予想される唯一の大災害は水不足による干害であるがこれは人工的に解決する以外にない。換言すればド国政府の施策にまつことであるが、既に現在、充分の水を供給する水路が出来ているから、その心配はないと思う。その他の災害で顕著なものは予想されないが、ただ土地に相当塩分を含んでいるから、これが流亡するまで作物も充分出来ないだろう (塩分は容易に洗

い流される性質のものでその後再び塩分の流入するおそれはない。)

II 社会的条件

(a) 入植地の過去の経緯

これは国家の国土開発に基くもので、過去の経緯で複雑なものはない。土地は国有地である。

(b) 附近の都邑と人口集積の状況

地区の東南東約 50 Km の所に、バナナ、岩塩、石膏等の積出し港として有名なバラオーナ港(人口 31,958)がある。道はアスファルトで舗装されていて自動車で約 1 時間かかる。地区東北東約 20 Km にネイバの町がある(人口 23,468)ここにも立派な自動車道路が通っている。

(c) 交通、通信関係

この地区附近のみならず、国土の到る所道路は非常に発達していて、自動車による交通は乾期、雨期をとわず自由である。通信は今のところ Barahona 辺りから郵便自動車が通んで来る。コロニヤには電話施設は未だない。

バラオーナには飛行場があり、首都トルヒーリヨまで約 2 時間(58)である。

(d) 行政

当分の間直接の行政事務は植民地管理官が行う。学校はド国の教育制度に基づくものが *colonia* 内に作られている。病人が出た場合は最寄りの国立病院へ無料で入院治療される。(カトリックの運営で看護等は至れりつくせりであるとのこと) 警察は発達していて癡敗などはないようである。又この国では軽微な犯罪に対する警察権を軍隊が持つていて軍、警協力して犯罪の防止に当たっている。

(e) 特に入植地近傍の衛生状況

特記すべきものはないが、唯日中の暑さは相当のものであるから、余り無理をしないよう、又飲み水等を注意する必要がある

ろう。マウリヤは今のところないが、水田が出来れば、蚊の発生はまぬかれないと思う(ダハボンの例から見て)から、それの対策を考えておくに越したことはない。現在は住宅地区に蚊も蠅も殆どいない。

Ⅲ 産業及び農業事情

(a) 近隣地帯の産業状況

地区と *Barahona* との間 *Cabral* というところに世界第三位といわれる岩塩の鉱山があり、米国系資本の大会社がその採掘搬出に当たっている。氷のようにきれいな塩を出している。こゝでは相当量の石膏も産する。その外は開発されつつある農業地帯で、かんがい施設の完成にともなつて、水田(水稲) *Guineo* (バナナ) 甘蔗、ココヤシ等の大規模穀種が西漸しつつある。

(b) 主要地帯の耕種概要

1. 米

整地は *MACA (Mecanizacion Agricola Compania por Acciones* の略、国家の専業に協力する農業用発機公団のようなもの) の手でなされる。播種は与えられた地区内に適当に小畦をつくり、苗代となしそこに播種する。苗が育つと雑に田植する。播種の時期はとわれない。又、植付時期の苗の苗令は日本流に考えて45日苗を植えようだと言っていると失敗するようで、これはあくまで現地の習慣にもとづくやり方から出発して逐次改良すべきは改良するがよい。

肥培管理は当分の灌水の管理がすべてである。

現地人はかくて年ノ作取つたあとは家畜を放牧して休閑している。

播種量は詳かでないが収量は移住定着課長の談によるとこの辺り最低の地でタレア当 ユ〜4キントルという(一寸表現はおかしいが) 仮に3キントルとして計算すると

相当 50 キンタル (キンタルという時は粃ではなく米を現す習慣である)

$$\therefore 50 \times 45.3 \text{ Kg} \approx 2300 \text{ Kg}$$

日本流に言えば相当 4 俵弱というところである。

私の見たところでは少し田が熟して来ると相当 5 俵は充分出来ていると思う。これを年 2 回やれば 10 俵というところである。

最近政府は米の生産者最低価格 キンタル (45 Kg) 当 11 ペソ (11 \$) を決定発表した。

2. 葱、セボジー *Cebolli* と称する恰度日本のわけぎの様な作物である。料理に好んで使われる。これはこの附近で最も収入の多い作物とされ、播種 (亩) は 8 タレア当 4 キンタルを投じ収穫は 100 キンタルを下らない。(タレア当に換すと 12.5 キンタルで、更に相当にすると約 20 キンタル 900 Kg となる) キンタル当 8~8.5 ペソに売れるから 8 タレア当 800 \$ の粗収入となる (相当 60,000 円位)

耕種方法は丁度日本の玉葱、わけぎ栽培のようなもので、多少除草が必要

- 3 その他 落花生、トマトなど栽培法は日本に同じ (温床は勿論不要)

(C) 輪作形態

当分の間輪作を考える必要はない、将来は水稲を一作とつた跡地に緑肥作物を作るなど必要となろう。

(d) 農業経営形態

水稲作を主体とし、セボジー (葱) などの作物を適当に配する。落花生やトマトもよいと思う。家の周りには バナナ、パパヤ、^(樹林) 榴莲、野菜などを植えて、生活の足しにする。動物は鶏、豚を小規模に飼う程度がよい。

動力としては、役畜の時代は大体もう終つている。大耕起は M A C A の撥草或は自分達でやるようになって米国製の

20~35HPのトラクターが沢山入っているから、これを協同で使えるが、どうしても小組工がきかぬので、各人が日本製の10HP以下のハンドトラクターを持つことが望ましい（これはダハボンの入植者が声を大にして言っている）
そうでなければ、ラバであるが、これは政府から格安に入手出来る。

なお、水田地帯では、将来とも、耕地のまん中に家を持つことは出来ないから、2~3km程度の出耕作は普通になると思わねばならない。

(e) 標準生活費及び労銀、労働能率

政府から支給される生活補給金は1人/日当り60セニター枚（60セニターに相当¹²⁴2/6円に相当）でこれが大体の標準生活費といえる。現地人を雇った場合/日の賃金は1.25ペソ程度である。労働能力は必ずしもいゝとは言えないが、日中10時頃から2時頃までを除き労働に適し、又季節的や雨のために働けないという日はないので、至極のんびりしている。年向を通して見た場合、日曜日を全休にしても日本よりずつと労働日数は多くなる。少なくともその機会は充分に与えられる）

この辺の原住民は *platano* と称する甘くないバナナを主食とし副食物として殆どない。日本人が入った場合、米飯にアビチエロと称する豆（日本の金時豆、菜豆の様なもの）²塩味でドロドロに煮たものをかけて主食とすることゝなる。副食としては、トマト、かんらん等の野菜類若干の、鶏肉、卵、魚、その他果物類となる。砂糖、食塩は比較的安く、食油には落花生油がある。調味料としては日本の醤油はなく、味の素が重宝される。尚コーヒーは国中どこでも安く入る。

電灯がついているので、灯用油はいらない。衣料は日本より5割方高いので当分のものをもつて来るがよるしい。夜は毛布ノ枚位ある方がよい。教育、衛生は国で充分手当がしてあるので心配ない。

(f) 最寄市場及び市価

主な生産物たる米は、国際商品であるので、政府は最低価格をきめ半ば統制している様なもので、生産はしたか誰も取引手がないということは起らない。

その他の作物、セボジーの如きものは、最寄市場としては *Barahona* だろうか、販路は自働車の便がいいので比較的広い、落花生は各地の油房に集荷される。

一時的には土地の新しい生産物は暫く販路に困ることもあるが（又これを移住者達は、なんぼ作つてもちつとも売れやせんと言つた様な極端な表現でよく我々に訴えるのであるが）国全体がすばらしく発展途上にあるので、先の見通しは明るい。

生活必需品や生産資材はコロニヤが出来れば自然に流入して来る機構になっている。（工業製品は野菜種子の如きものに至るまで、米国製が支配的であつて、この国の製品で巾を利かしているのは プレシデンテ ビール（大瓶が 45 セント）のみ

(g) 入植者営繕収支見込み

1. 入植初年度は、水稲その他作物の試作をして見る程度で収入の見込みは立たない。この尚水を耕地に入れて、塩分を流し流すことをする。

生計は生活補給金により、手持ち金は、むだ使いせぬ様にめておくがよい。

	反当	金額
水稲 延 2 町	5.5 倍り (邦貨 20,000 円)	4,000,000 円
セボジー 0.5	150.00	2,700,000
(中一部は <i>mané</i> 落花生、トマトとするもよい。)		
農業粗収入計		6,700,000
生計費、5 人家族 月 30,000 円として		3,600,000
農経費 水稲種子代、野菜、日雇人賃銀、トラクタ油代等		230,000
(ダハボン入植者、中滞農家の農経費より推す)		80,000
	差引	

3. 三年度

水稻は延3町以上とする。セボジー、*mani*、トマと等は延1町にする。

生計費、賃金等は多少づつ上つて来るが、二年度以上の黒字となる。

この年から組合活動のための資金蓄積が必要である。

4. 完成年度

入植者の能力に応じて次の3町の土地配分を受ける可能性がある。実際は経営面積区々となり、見積り困難であるが、仮りに3町歩を *full* に活用する場合を想定すると次の通りとなる。

	延作付面積	担当収量	収穫高	kg当単価	金額
水稻	5町	米 2000kg	10,000kg	24セント	2,400 ^{ペリ}
セボジー	1	9,000	9,000	18	1,620
農業経営費					4,020
生計費					1,000
その他経費					1,200
差引経営餘剰					500
					1,320 ^{ペリ}
					(47万円)

IV 入植地建設計画及び入植計画

(a) 入植地の建設工事計画概要

概況で述べた通り、なお敷道の建設が必要であるが MACA の手で引続き施工される

(b) 公共施設、個人施設、水源

何れも完了

(c) 圃墾

完了

(d) 土壤保全計画

なし

(e) 入植地受入条件

移住者資格は、同伴者なきを望む。家屋の關係から余り大人数は困る。(6人以下) 義務は作付を履行し、国の開発計画達成の線に沿うことである。(明文化はされていない) 輸入受入等はド国に於て万全を期している。

(f) 受入機関の受入計画

受入は國家の直接業務で万全の措置が講ぜられている。

V 受入国、在外機関並にその他在留邦人等の意見

受入国はこの地区の農業事業は技術的に可能であるという確信をもっており、現地に於て實際生産に従事する人を求めているのである。

在外機関並に邦人識者は、この度調査者が農業技術的に極めて有望であるとの裏づけをしたので、且この地区は暑さのため他国(スペイン ハンガリー)入植者が続々退耕して行くので、多数日本人移住者を招くよう積極的な意図をもっている。

VI 調査者の意見

既述の通り、この地区は農業技術的に見て、又経営的に見て、極めて有望である。

他国移住者は暑さに耐えかねてしつと涼しいところへ移転しているのであるが、日本人はダハボンに於ける状況から見ても、生活出来ないところではない(ダハボンと似たりよつたりの暑さである)土中の塩分については、一、二年苦勞するだろうがその後はよい。

この国の入植者は他の地区も同様であるが家屋の關係等から、同伴者なきが望ましく、又一団に一人のリーダーを是非選定してほしい。リーダーは農業技術、経営面で練達の士であること。その上語學の業養の望ましいこと当然である。日本人が多数入植するようになれば、益々その必要性を痛感する。(自称リーダーが第三者から見て一番馬鹿であつた例があり、これは一番困るが)尚、農機具は内地で使つたものを何でも持参する外、出来れば10HP以下のハンドトラクターを持参するよう、これはダハボ

シ、コンスタンサの入植者の忠告に従って附記する。

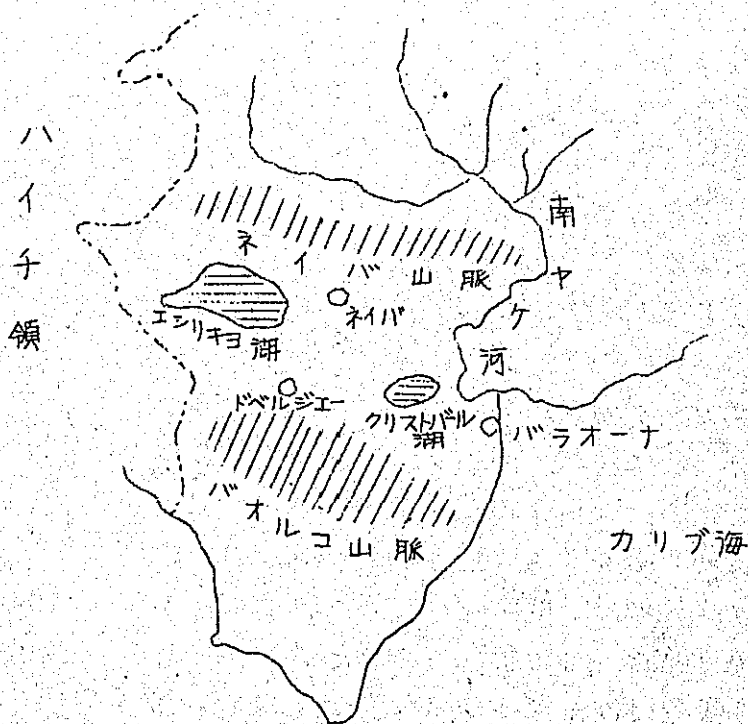
ネイバ地区

1957年9月12日 農林技官 中田 弘 平

海協連支部 横田 一太郎

前 言

北の地区はドベルジエ地区の北東約20kmの近傍にあり、農家の経営形態が後者と異なる外は大体同じ条件下にあるので、本報告書も、ド地区に記載したと同じ項目についてはこれを省略する。FAOの調査員もこの土地を見て、その地味のいゝのに驚いたというが、ド国に於ても大いに期待するところである。只雨の少ない暑いところであることは度々の報告にも書いたとおりである。



Ⅰ 自然的条件

(a) 位置

N $18^{\circ} 30'$

W $71^{\circ} 25'$

標高 $100 \sim 150 \text{ m}$

(b) 地区の規模

現在南墾整地されているのは耕地用として 3,000 タレア (180 町) 宅地用として 1,500 タレア 計 4,500 タレアである。まだ東西に拡張の余地は可成りある。

(c) ネイバ山脈の山麓から南の平地に向つてテラス状に張出した巾約 2 km の台地状の地区で、全体が南に向つて $1 \sim 2^{\circ}$ の緩傾斜をしている。地区内は平坦で沼沢、河川等はない。地区中央に立つて見渡すと、はるか南方 Baoruco 山脈の麓に *Dunergé* のコロニヤを右手 (西方) にエニリキヨ湖水の東端を見おろし、又背後には、ネイバ山脈の連山を負い風光明媚である。

(d) 地質、土壌

表土は暗灰色の壤土よりなり、検定結果は、pH. 7.2 有効燐酸豊富、置換性石灰頗る豊富である。表土深は 1 m 以上に及び下尺土は詳かでない。

土の成因は詳かでないが、石灰岩よりなる山はだか風化崩かいて、こゝに残積したものと思はれる。表土中に指頭大より拳大の石灰岩の破片よりなる丸味を帯びた転石をやゝ多く含むが農耕には支障ない。

地下水位は不明 (地形上から見て可成り深いと思われる。但し上水道は、宅地地区まで来ている。

地下資源はないものと思う。

(e) 植生、草原の状況、林相

附近林相はトウベルジエ地区と同様半沙漠状である。この地区附近には鉄木 (*Guaiacán*) と稱する貴重木を産する。

極めてかたく重い木で船のスクリュー、シャフトベアリングにする。(ton. 600 弱 するそうな) 地区から 5-6 Km. ネイバ山脈よりに入ると、淺谷部になり、大樹が繁茂して、山の冷気が身に沁みる。

(f) 山よりに多少野鳥(山鳩のような)がいる程度で殆ど何も見かけない。

(g) 気象

Quvergé 地区と同様

(h) 災害事情

同上、但しここは畑作物であるから、ド地区程度は要らないが現在ある水路では水が不足するおそれあり。目下別の水源からの水路を施行中である。

II 社会的条件

(a) 入植地の過去の経緯

未開発国有地

(b) 附近の郡邑と人口集落の状況

ネイバ 人口 23,468 人 但しこれはネイバの町だけでなく、ネイバ町を含む言わば郡といったものの総人口である。

(c) 交通、通信

地区はネイバの町から約 200 Km 山寄りに入ったところでのこの間は未だ本道路が出来ていない(但し自動車は通る)、最近本道路が造られる予定である。

ネイバの町からは *Barakona* 方面 *Quvergé* 方面及び西の国境方面に向つて、補装通路があり、自動車の交通は自由である

通信はネイバに郵便局がある。

(d) 行政

ネイバは *Bauruco* 県の首都で、学校 病院 警察等行政関係の機関が揃っている。又入植地内に相当数の子弟が出来れば、学校が建つ予定である。

(e) 特に入植地近傍の衛生状況

特記事項なし。

産業及び農業事情

(a) 近隣地帯の産業状況

Wunnege 地区に同じ

(b) 主要作物の耕種概要

この地区は表土深く、地味すくれているので、水さえやれば、熱帯性作物は何でも出来るが特に適作物は *mani* (落花生) アビチエロ (*habichuelo*) (いんげん) *cebollín* (わけぎの様な野菜) *Batata*, *yuca*, *Guineo* (フルーツバナナ) *Dlatano* (*Cooking banana*) などである。(米類は作らない) その他野菜類は日本の夏作は何でも出来る。果樹ではパパヤ、ヤシ (*cocos*) マンゴー、など、又ブドーに、い、という (農務局長の談)。

1. 落花生 栽培方法は日本と同じ、当分は無肥料、小粒立茎種である。収量は *tarea* 当 2 キンタル 約 100 Kg で、キンタル当 8ペリに売れるから、陥当 266 ペリ邦貨 96,000円 の粗収入となる

2. *Guineos* (*fruits banana*)

この地方はバナナの適産地である。北の方ダハボンの近くの *Grenada* には *Grenada* 会社の経営する世界的に有名なバナナの大 *plantation* があり、北米欧州にその果物を輸出している。バナナの平均収量は *tarea* 当 100 房で販売価格は 1 房 / ペリである。栽培密度は 2~2.5 m 四方に一株で *Grenada* のバナナ園では下草に日本の くさ の様な草を繁らせ家畜の飼料にしている。又 100 m 四方位を竹林の防風林で囲み、灌漑は撒水式で高さ 20 m 位の撒水パイプの先から消防演習よろしく撒水している。日本人が作った場合この会社に共同出荷する。

3. その他作物、前報告の作物別生産量、販売価格表参照。

(c) 輪作

当分考えない。

(d) 農業経営型態

バナナ園を交えた畑作経営 労力はハンドトラクターが適当
家畜は小規模養鶏、豚

(e) 標準生活費及び労賃

Quivergé に同じ

市価は大体日本より5割高と思えばよい。ガソリンはガロン
当0.5ペリでこれも日本より高い。

(f) 入植者管農収支見込

作物として Maní, Frejol 豆 cebollas (又は
Cebollin セボジン) Guineo (バナナ) Yuca, Batata
を適当に配するものとする

1. 初年度 この年は用水の関係などで土地は full に使え
ないものとする。

	作付	収量	金額
maní (落花生)	10 アレア	20 キニタロ	160 ペリ
Cabollas (玉葱)	5	35 "	240
Batatas (甘藷)	5	50 "	50
Frejol (豆)	5	500 lbs	75
Guineo (バナナ)	5	250 房	250
計			775 ペリ
			+ 280,000 円
生活補給金 (0.6ペリ X 5人 X 365日)			+ 390,000
農業経営費			- 230,000
生計費			- 360,000
差引専家経済余剰			+ 80,000

2. 二年度は用水の過不足を見て作付を逐次増加する

3. 三年度 (完成年度)

Mani (落花生)	20967	40キニタ	320ベリ	
Cebollas (玉葱)	10	70 "	480	
Batatas (甘藷)	10	150 "	150	
Frejols (豆)	20	3,400 lbs	510	
Guineos (バナナ)	10	1,000 房	1000	
			<u>2,460</u>	^{ベリ} + 885,600 ^円
農経費				-250,000
生計費				-360,000
その他経費				<u>50,000</u>
差引農家経済余剰				225,600

IV 入植地建設計画及び入植計画

個人住宅及び公共施設は調査時現在まだ出来ていないが、1ヶ月あれば出来るから、入植までには必ず出来る予定（実行可能と思う）。

その他ド地区に同じ。

V 受入国、在外機関等の意見

極めて積極的である。

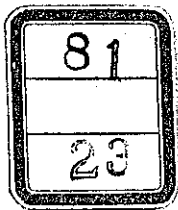
VI 調査者意見

ド地区と相呼応して入植するを可とす。将来極めて有望である。

貸出期間票

所 属	带 出 者 氏 名	貸 出 日		返 却		返 却 日	
				返	却		
	...						

伊藤伊梨



~~334.66~~
下 81 23 ~~334.66~~

日本海外移住振興株式会社
中南米移住現地調査報告書Ⅲ

334.66.

